特1 — 278

本草圖譜

本草圖譜

本草圖譜卷之八十二目錄

喬木類

蘗木 きもだ 二
檀桓 四
黃櫨 不詳
一種 ほ・ろき 七
一種 大山れんけ 九
一種 物印忙の圖
一種 同上
一種 三
小蘗
厚朴
一種 八
一種 十

一種　日上　十二
一種　日上　十三
杜仲　十四
一種　十六
一種
漆　十七
梓　十三
一種　日上
一種　日上
一種　十五
椿　物却忘の圖　十七
樗　十九
一種　十二
楸　十四

本草圖譜巻之八十二

喬木類

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正　校
門人　小山廣孝　校

帝國圖書館藏

蘗木　きはた　樹皮黄色おうせんそく　黄木　本草和名川兼名苑　檀　桓　同書引欽草性

蘗根　樽槙　檀　無根　共ニ同上

根黄　発明附方　ハヱリツ　蛮名　アマレル　アルモヤシ　同上

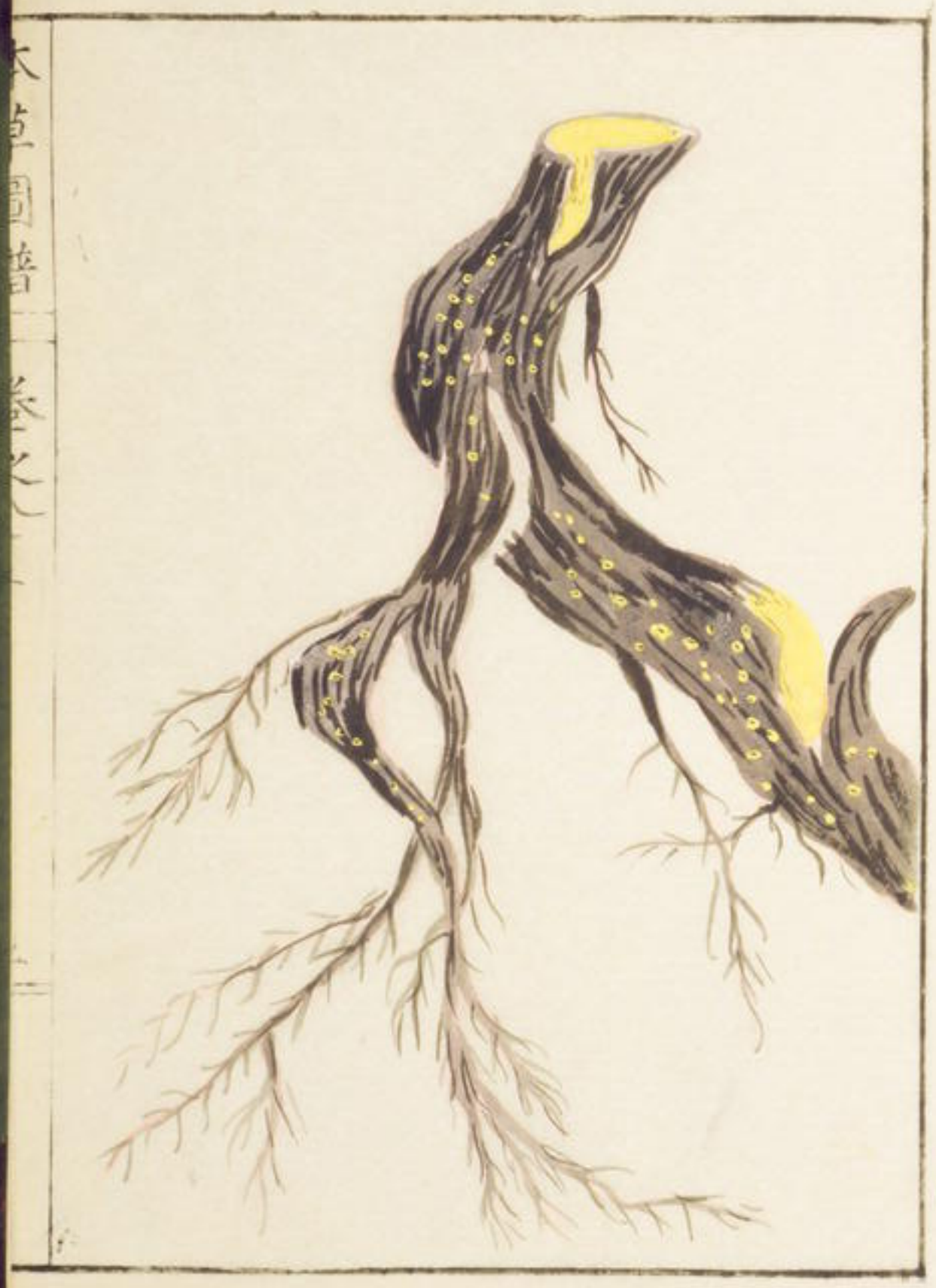
享保年中朝鮮より黄蘗の子渡りしに由て官園に栽させかゝる大樹となれり其葉和産の物に似て葉の莖緑色にして光澤ありて長し花実は和産と同じ外皮灰白色にして樹皮に似たり内の皮は純黄色なこれ川黄蘗之此皮を測ふに春の彼岸より秋の彼岸の間に取り日に乾し用ふべし田村氏の説に粗皮厚くして軽虚柔軟く弓の振り皮とおもへしこれを拔る時は暖おりとへり又易州志に黄桓の重皮を暖皮と云然るに時珍は暖皮を以て樺木皮のをゝ性むへきことゝ又熱を解し酒毒を消すとゝ

一種

大和本草に本邦処々にこれありと云其和産の物は葉対生して形漆の葉に似てこれをきれば臭気あり夏月枝の梢に細枝を分ちふき黄花を開く雌雄ありて雌なる物は実を結ぶ形胡椒の子の如く熟をれば黒色味ひ苦く微し香あり乾ときは五稜あり大和本草に此実をシユハイと云雪詰ふるへし味ひ苦さへ虫を殺し腹痛を止むとゝ蘭山の説に今市肺茶舗に賣る所二品あり木曾山中より出るを美濃皮と称し上品とす此川黄蘗人薬用染用ともに上品とす江州葛川より出る者を北山とす茶用染用共に下品とす此山黄蘗人とゝ

藤木

一種



檀桓

前条藤木の根
あり外皮黒褐色
中黄色心ハ淡黄
色味い苦し

厚朴

厚薄　証類本草　スエヒロモヤパリニヽ　羅甸　ウアーガホーハ　南

真の厚朴ハ和産群ヲあるとき和名鈔本草和名ニハ四不加一見と訓セるもあり　ものゝふのきの皮を用ひるゝ厚朴の高ものゝ種類遠く下品とし　ものゝの皮ハ外白く内薄く味い辛一酸一厚朴の効ハ故に一種俗ハ唐厚朴と名ケるあり　此も非とし　又薩戸厚朴と称セるハ　なんのきの皮と云なるハ　ものゝ皮　椒皮　厚朴と紛たるあり　椒皮ハて　イカエフニまゝ　フセテとし　云用て　腐ら効あり　支敢年中　越後ニ　採出た　椒皮の物ハ勝れり　是又　ものゝきゝ又　同類　なり　復るあり　蟹皮　厚朴ハ似たり　和名の物　古渡の物　厚さ八九分ハ　ものゝ　味苦く　辛一　上品之　上の如き品以来　渡りた　寛永年中ハ　来るハ　皮厚く　ハ　辛味　其色　薄一　又　来　輝ハ　来ちゆいと　呼ぶ　皮の内　紫理あり　柔　柔あり　本邦ハて　ものゝ　皮を　梅　梅皮　汁ハ　染　偽あり　昔年　漢土より　厚朴の　生葉を　持来り　蹟葉ハ　一ハ　ものゝ　日　撃　ものゝ　日　月　月　大山　れんけと　云木ハ　似て　紋脉　ハて　ものゝ　お　髣髴　たり　厚　人　と　四時　凋　ものゝ　葉ハ　黄　其　真偽　備　詳　ものゝ　月　蘭書　和　印　牝ハ　数　経　載　ものゝ　関　ものゝ　下　ものゝ　月

椿樹皮

本草　和名　傳用　重皮　本草　和名　引　釋　薬性

一種　ものゝき　漆　伯　録　群　唐　厚朴

古ものゝ高ハ厚朴ハ元ハ備急本草ハ図ものゝ花葉の形状　相似たり　此物　厚朴　かゝるハ　樹皮を　称ものゝ　代用　ものゝ　其根皮　微一　香ものゝ　味い　苦く　微味ものゝ　此　樹長　ものゝ　ハ高木　ものゝ　春月　葉を　生ハ　微　苗　紅色を　帯ハ　長さ　ハ　長さ一尺余　幅三寸　許り　甚厚一　春の中　枝の　梢ハ　花を　生ハ　白色ハ　微一　紅を　帯ハ　形　蓮花　如く　辛　甚厚一　紫紅　黄の　長き　葉を　ものゝ　ハ　香　ものゝ　後　実　生ハ　形　海松子の　如く　鮮甲　あり　長さ　五六寸　熟　ものゝ　ハ　深　紅色の　実　表ハ　甚　美　秋月　発　葉　ものゝ

一種

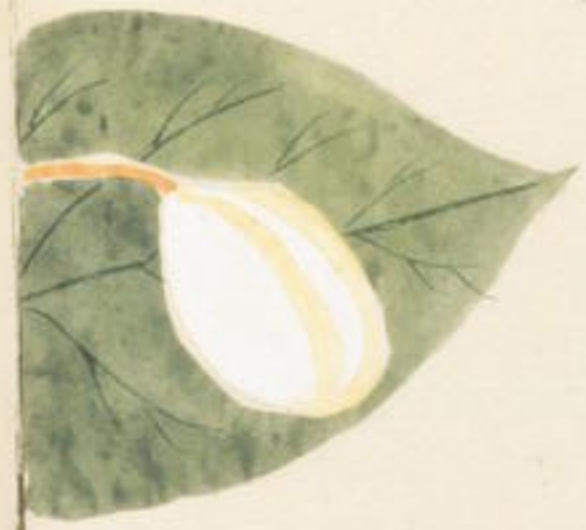
葉の形前条ニ似て紅色少一　緑色　花も前條ニ似て　紅色　ものゝ　正白　之　此物　薬用ハ　前条ニ　少一　劣ハ

わとのき

一種

一種　大山れんけ

或云延宝年中唐土より渡ると云り
樹高さ小至る葉ハもくれんけに似て
厚く花の形をのきの花に似て稍小く
白色なり　葉の形頗る菊花に似たり
実もをのきに似て小し　樹皮白色味
ひ苦く辛く香気あり　根皮を揚り用
れハ効あるへ々れとも希なる事へ采
用ふりかたし



一種

葉の形前
條に似たり
花も又同じ
蕊細くして
四方に散開
せり

一種

物印花に
載る圖
葉の形
柳に似て
中に青色
中に紅色と
葉の間穂
あり花実
何れなる
や分明な
らず

一種

一種

一種

図書に載る圖葉の形状みなしさを似たり花は頗るなんとくに似たり

一種

図書に載る圖葉の形上の物に似て先尖り黄をおし花の形菊花に似たり

一種

同書ニ載ル圖葉の形柞木ニ似て円く花ハ野菊ニ似て褐色く

杜仲

まゆみ 本草啓蒙 和名鈔　かわまゆみ　やまぐわ

まゆみ　まさき 江戸ニ於テ 別物なり　かたとり まさき 中越

かわまゆみ 紀州　まさき　まゆみ 勢州　こまゆみ

たかまさ 實名　さるのおう 防州　こまのみ 丹波 播州

いちこまき 近江 方名　大戊 本草和名 引紫花　木精 同書引 録験方

山精 同書引神 仙服餌法　棉花 本草 彙言　コンナニ 蝦夷

古説ニ随てまゆみとなし又一種多く諸國山中ニ自生て喬木となる樹皮をとりて折ハ白き糸あり葉ハ梨の葉ニ似て狭く長く方茎ニ対生花春月葉の間より細枝を生し花を開く形小く衛矛の如く随て実を結ふ一房ニ数十顆下垂ル其子外皮淡紅色大さ小き鈴の如く四ニ裂て内の実顆ヲ紅色ニして まさきこ或ハまさきニ同し葉神無月紅葉して落ツ田村氏の説ニ長崎の薬園ニ漢種の物あり和産と異なることなしといへり

さハだつ 尾沒

尾沒奥昴あり又江戸花戸にて
唐杜仲と云高木とおゝ樹皮
黒褐色葉ハ桃葉珊珊(ゆき)に
似て短く淡緑色かゝる光沢あり
一とおゝ三葉つゝ対生冬月落葉
ハ春月葉の開くゝ細枝を分ち
八瓣の花を開く黄青色大き
四五分後実を結ぶ四稜あり熟
すれハ四つに裂て内の実あらはる

一種

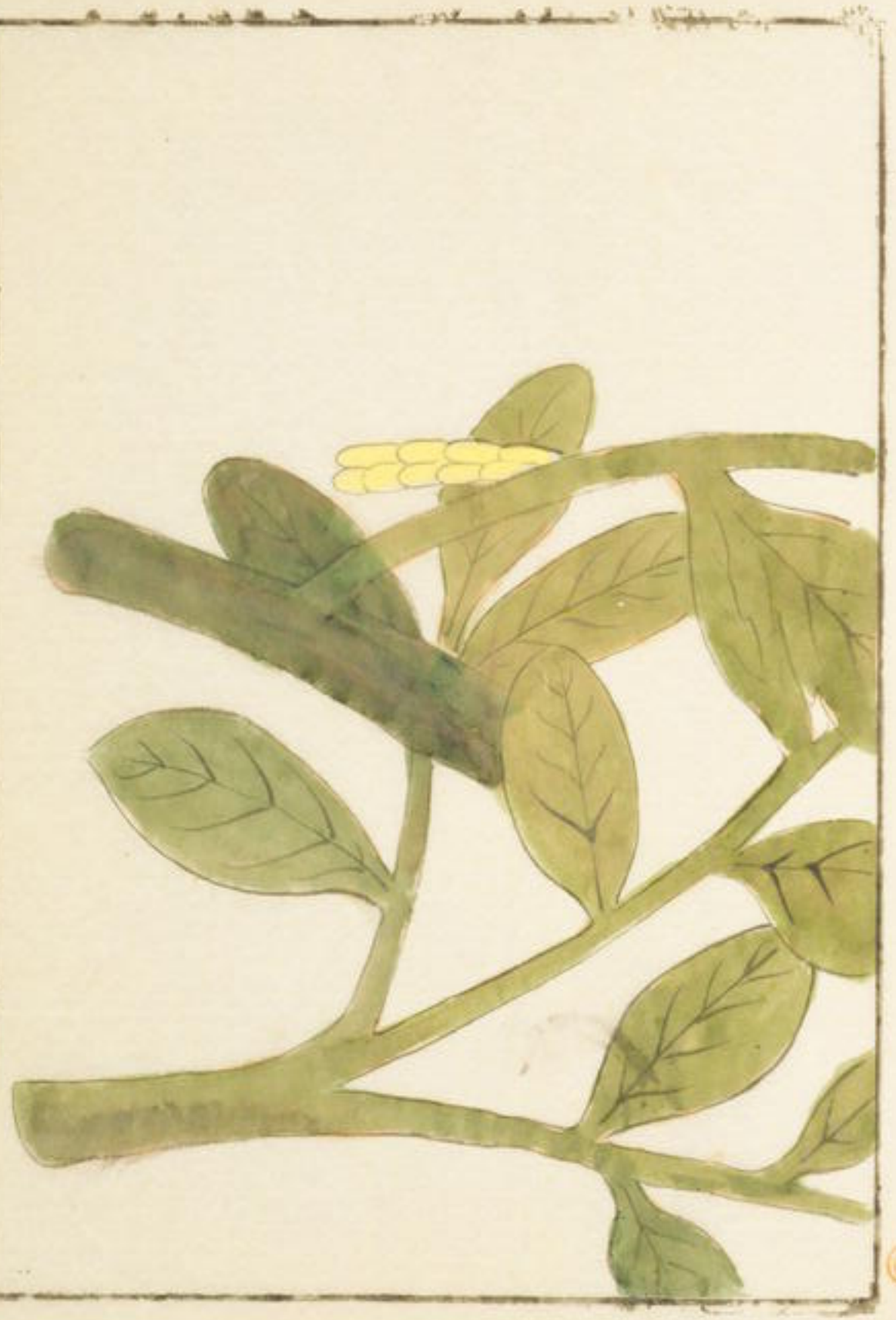
志ぶのき

志ぶのかしのき 又紀

つゞのき 州九 またのき 又奥

薩頌の説の葉亦類柘と云
又木可作屐と云ふ用と考ふ
れは山中にありて樹皮青褐
色此皮柔軟ある事以て繩
とし又裂て馬の頸に拭
ふに用ゆ此物ふかん此類大
葉に葉二種あり此物葉の
形柘に似たり葉の間まつへ
の如き物を生ず其中より
莖を生ず莖の先に数花を
結ぶ

椿
柳印花の圖



古へより椿をつはきとおほゆ誤りて先輩ちやんちんを以て充るも穏りかなれ
ちやんちんハ甚臭気あり今按ずるに椿ハ香気あるゆへ群芳譜に香椿と名け
秘傳花鏡に椿の条に一種似椿而葉臭有花結莢者俗呼為臭椿是樗非椿
也と云に因ハ椿ハちやんちんに非ず樗ハちやんちんに的當ありと決ひ〳〵其香
椿ハ和産なく物印忙に圖あり葉の形葉の葉に似て小く円葉に互生ず莖葉とも
に緑色枝に紅を帯へり

一種

同書に載る圖葉の形杓杷に似て円く円莖に互生し莖葉共に緑色なり

樗

ちやんちん 京　きやんちん 同上　らいでんぐく 丹波 常州
ちくこぎ 土沢　そぶしらば 武良 玉川　くまがつり 勢沢
ちろろすせ 上沢　かまらなし 後沢　ちゆこかのき 奥沢

ひんぐく 防沢　ひよけのき 同上　ちんつき 江沢
とうへんぐく 江戸　鬼目 証類本草　獲 通雅　悪木
臭椿 群芳譜　大眼桐 中山 貞間

山野に多し直上して高さ五六丈に聳き枝粗ゆして稀に葉に漆に似て窄く嫩
苗紅色を帯ひ円莖に互生ず枝葉甚き臭気あり数年を経る物ハ梢に穏を
ありて二瓣の小白花を開き後実を結ぶ五稜ありて形ひしりうの莢に似たり外皮
黄褐色自ら裂て形五瓣ありて椿使の花に似たり詩唐風に山有樗と云ハ是なり
一種雄なる物あり花葉とも同し

漆

うるし　漆澤　本草和名引韻字譯　マロンヲツ　東医宝鑑

ラツク　蚩名　ラツカ　同上

山中に自生し又培養せるもの多し高木とする大葉は一莖に七九葉対生し黄白色の小花攢生れ子は円くして扁し此實より蠟を採るこれをうるし蠟といふ此樹皮に切めを付置は白き脂液流れ出るを番にとる日にかはりませ膳し貯へ器物をぬる用ゆ本邦の物を以て上品とし漢土の物を以て下品とし奥及羽及野及より出るは色白くして性強し俗にせしめうるしと云物を接に用ゆるべつぎうるしと云日外より出るは小細工に用ゆ和及吉野紀及熊野諸山より出るは弱くつやうるしと云上なりに用ゆ彩色に用ゆる漆は吉野を上とし采用にふれ乾漆は漆店にて桶に貯へ置き其辺に自然やけつきて形蜂の窠の如く色黒くして軽く上色菜舗にて菴目様の乾漆と云集解別景の説佳とおもへし又別に菜店に岩乾漆と

和せるものあり これは海岸にある黒き石にして乾漆にあらず用ゆへからずこれを燒は硫黄の気あり これ石の部の石炭舶来の乾漆は桐油を混入せるを云説あり用ゆへからず大和本草に乾漆は搗碎き炒熟せへし あかなれば腸胃を損ず漆の毒に中り死に至るものあり早く療せへし蟹及蜀椒最もよく毒を製れといへり

一種　ちゝ　和名鈔　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ　ちゝ

葉の大に実の大に数種あり葉は漆に似て尖るあり秋より紅葉をおもしとし云諸国多く栽て実より蠟をとる夏月枝の梢に穂を生し黄白色の小花を開き後実を結ぶ円く扁して下垂し熟せれば黄褐色とおもふ

梓

あつさ 本草和名　ひさき 和名鈔　きゝこし　きさけ

雷電きり　すゝかこぶり　かりかり 筑後

かしあらきけ 越後　かりあらきけ 濃州　かりあらきり 常州

おさんかり 肥前　たらしけのき 摸州　梓 文説

梓と楸と異論あり集解に陸機詩疏を引て楸之疏理白色而生不肯為梓と
しく時診の説に木理白者為梓赤者為楸と云此等の説を考ふれば梓はきけ楸
はあらめかしあらと明人家多く栽せ樹高さ一丈余に至る樹皮白色これ梓白皮堂葉
用とし葉は白相葉に似て二尖あるは五尖あるを海東常山に似たり夏月枝の梢に穂を
あらを白色に淡紫色の細点あるを花を開く形鳳仙花に似たり後細き角を結ぶ形紅豆の角
に似て瘡を破く下垂し破れば中に子あり

桿

あかめかしも　糸
かしかし　豫外
さいもりハ　越中
おさいバ　播夷
おしやハ　山足
楠　通雅
あかゝち　日上加苧
あかゝき　石外
茨　上州

山野に多し樹直立して高さ二三丈許り葉初生紅色を帶て茶の如く形桐の葉に似て三角尖りあり葉も紅色之百分枝の梢に穗を生じ小花を開く淡黄にして糸の如し後実を横茨乃黄褐色にして軟刺あり中に小黒子あり形椒目の如し

本草圖譜卷之八十三目録

喬木類

桐　ひとすくさ　一
椅桐　集解　いぬきり　四
罌子桐　あふらきり　六
海桐　不詳
一種　あふち　九
一種　十一
頳桐　集解　とらきり　三
梧桐　あをきり　五
椰桐　不詳
楝　あふち　七
槐　ゑんじゅ　十
一種　いぬゑんじゅ　十二

檀　しゐぢ　十三
一種　十六
一種　おほしぶ　十九
一種　めもりのき
皂莢　かりしかふのき　廿三
猪牙皂莢 集解　廿五
莢蓬　かまぜし　十五
秦皮　とねりこのき　十七
一種　いとつもたご　廿
合歡　ねむりのき　廿一
一種　廿四
肥皂莢　廿六

本草圖譜卷之八十三

東都　岩崎常正著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝校

喬木類

桐

ひとをんさ　きり　白鐵樹 事物紺珠

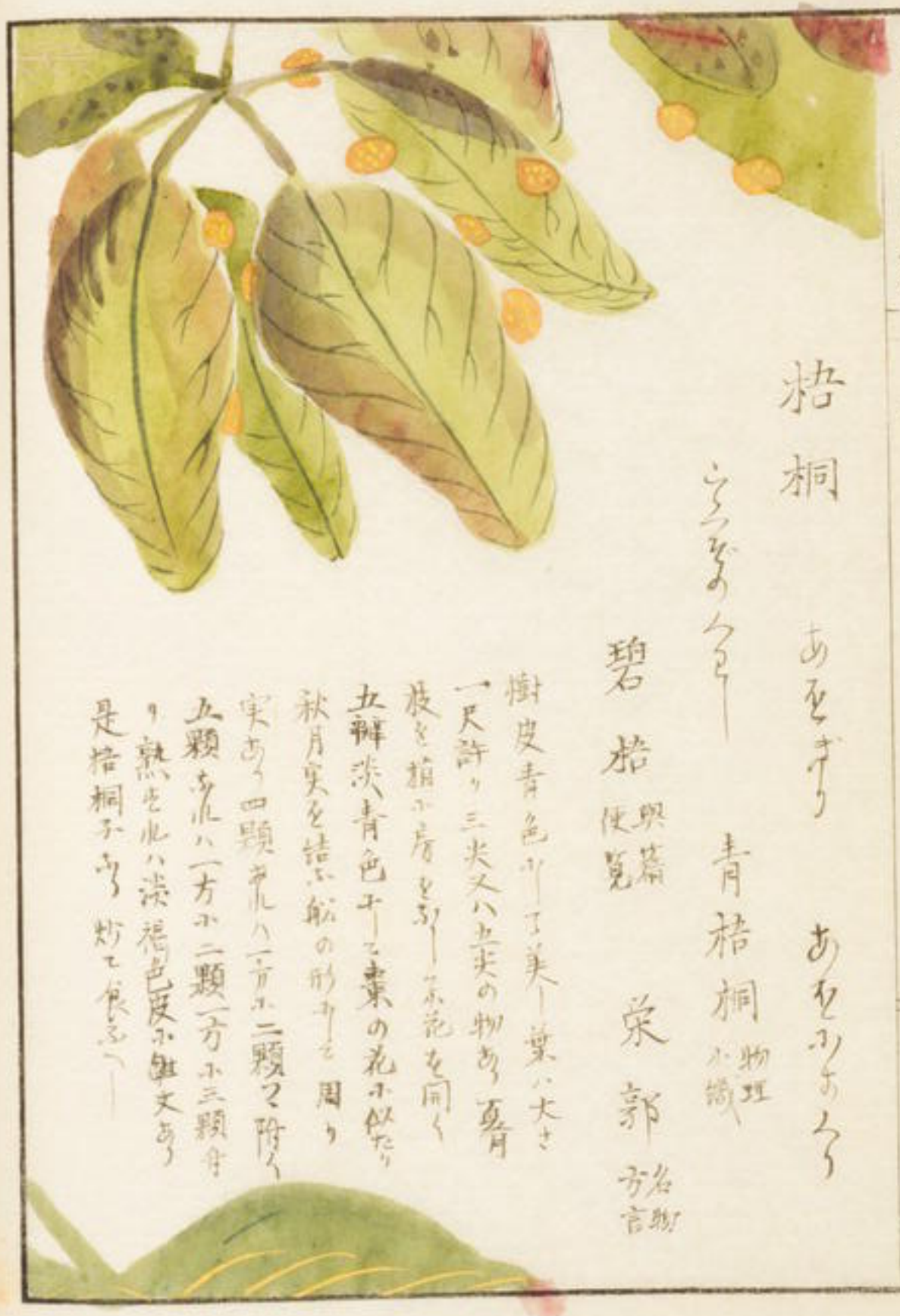
榮榔 同上　同木 和方書

太和本草に此木きれハ早く長さ一丈きりと云とゝて田村氏ハ此物をしまきりとハ紫花白花の二種あり紫花の物ハ江戸近郊に多し人家園圃に培養ハ捐に冬月より蕾を生し春のまに至り長き房をなし花族生し開く時ハ淡紫形胡麻の花の如く大にして長さ一寸許り從て実を結ぶ大さ大母指の如く長さ一寸余内對生して大なるもの一尺余にあり内に数子あり地に下して生し易し花を葉を生ぜ[illegible]此樹[illegible]に作る一種白花の物あり形状ハ紫花の物と同く唯木ハ紫花の物より下とあり

本草圖譜 卷之八十三
頼桐 集解
ひらぎり ひぎり
元暖国の産也へ甚寒を
恐ず因て冬ハ霜に養ふべし
葉の形円にして先尖るもの
ハ周りに鋸歯あり大なるも
のハ一尺許り夏月梢に長き
穂を生し枝を分ち数花
を開く瓣萼皆朱色秋
に至るまで長く花あり

椅桐 集解 いぬぎり
いぎり けぶのき
かぶせんふん

桐の類にして木直上し葉
楸よりも真梧桐に似て又ふ
く鋸歯あり互生し秋梢に
多実を結ぶ苦楝に似て小く紅色
あり



梧桐　あをぎり　あをぎりあらら

ごとぎのくらし

青梧桐 物理小識

碧梧 與籍便覽　栄郭 名物方言

樹皮青色にして美し葉ハ大さ一尺許り三尖又ハ五尖の物あり夏月枝を梢に房をなし茶花を開く五瓣淡青色にして棗の花に似たり秋月実を結ぶ船の形にして周り実あり四顆あれハ一方に二顆つゝ附く五顆あれハ一方に二顆一方に三顆付り熟せれハ淡褐色皮に雛文あり是梧桐にあり炒て食ふべし

本草圖譜 卷之八十三
罌子桐
あかがぎり
あかりのき 江戸
どくゑのき 駿
どくじ 紀
樹葉ハもふとゑに似て
大ハ一尺許り其葉少し
赤ミあり これをもれハ白
き汁出ル初夏枝の間に
房をなして白花を開き
実を結ぶ一顆の内に三四
粒あり状ち大風子の如
し大毒あり里民此実を
り油をとり燈油を
雜ゝ桐油に塗るに用ゆ

楝

楝

あふぎ　せんだんのき　山楝子 常山集解

欄 通雅　楝樹子 諸巻附方　楝樹果 外科正字

楝實 外臺秘要　川鈴子 医学入門　アサデラク 荷蘭

漢種の物肥前長崎に大樹あり枝葉和産の物と同し唯其実大にて龍眼の如く甚硬く中に仁あり梨の仁に似て黒色なり其内味い苦し薬用に入べし舶来の川楝子と同し

一種

あふぎ

處に人家に栽す葉は鼠尾草に似て周りに鋸歯あり表光澤あり夏葉の間より長き穂をなし紫花を開く大さ三四分後円き実を数顆結ひ下垂は熟すれは黄色後白色となる味い苦かなれ苦楝にあらず又実の長さあるものあり共に同し下品なり田村氏の説に大和宇田郡松山町の産は大さ弾丸の如く味い苦し茶用に入るべし又伊豆の新嶋の産は実なし細実にして味い苦し乾くときは薄しとつて此二品苦しあれは茶用に宜し

一種
あかぢ

槐

ゑふじ 和名鈔　まふじ 和名本草

ゑんじゅ　ゑんじ　メクヘニ 蝦夷

玉樹 通稱　毛雲 名物方言　聲音樹 葉先詳註

四女樹 葉夷考古槐名

キユアヤキユム 冊句

ホツカホート 荷蘭

西湖子の説に長崎に漢種の物あり形状和産の品と異なるとおしといへり此種江戸に来る官園に栽させらる葉の形和品の如くにして頗る小く円く枝を分つて繁く夏月梢に穂をなして花を開く胡枝子花に似て和黄色開ハ白色となる稜莢を結ぶ長さ二三寸

形豆角に似て処こゝ孔あり下蜂の腹の如く中に扁き子あり此物葉常の槐と異にして夜合さるゝへが雅の守宮槐なるへし

人家多く栽も樹高と二丈許りに至る葉は苦参に似て枝幹深緑色老ぬれは灰白色に変化夏月枝の梢に穂を出し花を開く形漢種と同じく実も赤漢種と同じ此物蘇頌の説也葉細くして青緑色但開之槐是之

一種 いぬえんじゅ
なるわ えんじゅ
俗に紫檀の木と云葉ハ常の
槐より至て大なり 葉ハ深綠にして
樹皮褐色夏月花を生ず 穗を刻て
黄色の花を開く此物 本雅
の據槐人凡 槐類大樹と云
ハ中心紫色にして木理美
ハ一巻となりぬ

檀

ちゝわのぢ

夫水集豆州方言

檀樹芽

救荒本草

北國又豆腐にあり 桑皮刺楸ともにあるわぢの名あるなく混れへりかれ樹長さ九ハ高さ二丈余に至る葉ハ桑皮に似て甚大にして二莖五葉をなし厚くして深緑色枝乾て粗大く早春葉と同く花を生ず接骨木の花に似て始紫色形奥の子の如く開く時ハ黄色にして辨細く下垂れ大和本草にあるわぢハ鎗長刀の柄とも木刀ゝ棒とはかろかしを折れとつくり

莢蒾

かまぜこ　よそめ 江戸　ぜこ 託見円名あり　まつぶ 日光

むしかり 尾張　かめかえ 仙州　かぎめし 明州にて飯に雜て食ましなく名く

かまとうし 薩見　いたちのけたかへし　むまのふた 信州

かこふぢ 丸ハ　うし　おろし 丹波にてハこの木を牛の名見へ通ぬへ名く

切手檻 通雅　核檻 日上　孩児拳頭 教荒本草

小木にして高さ丈許に過ぎ葉ハ両対して形円く周りに鋸齒あり深緑色にして皺あり長さ二寸許り夏月枝の上に花を生ずにして五瓣白色数百族生して傘の如し後実を結ぶ大さ赤小豆の如く秋に至り熟して赤色之味い酸く渋し里の小児採りて食ふ此木ゆるくなりして折れ難し故に枝をとふねそり薪を縛るなりとなん

葵蓮

一種

樹葉花とも小前條と同しく但実熟すれハ黄色にして美し味又前条と同し

秦皮 とねりこのき 和名鈔 左草和名

たむき 本草和名 とねりこ

たごのき

あをたご 本曾

たむのき 和名鈔

たゆこ

もそのき

とうねぢこ 江戸

イワエ 東地

岑皮 本草和名 引楊玄操

樊雞 円書引 雞要訣

昔曆 円上

拎槻 通雅

白辛樹 救荒本草

フウキニニスス 羅甸

吾センボーム 荷蘭

諸國原野及ヒ武州ニハ本所辺ニ多シ樹高き一二丈葉共ニ対生シ葉ハ一莖ニ五葉或ハ七葉ニシテ形呉茱萸葉ニ似テ薄シ春月枝の梢ニ葉同時ニ花を生ル黄白色の碎花族生シ形接骨木の花ニ似テ下垂ルニ礼雄木あり以下数種皆皮を剥テ水中ニ入る時ハ其水忽ち青碧色ニシテ華夷考ニ拝取其皮以水浸正青用洗眼瘡人目中膚翳故色翳青色象也秦皮類皆然ク葉ニハ初の一種並ニ雌木ニ有ルヨリ皮を用ヒ一和産上品ニシテ二舶来ニシ又云舶来の墨ニハ秦皮汁を用テ色を助ケルと云此事集解ニも云リ前ニ云雌木ニ有ルヨリ葉尖長ニシテ花ハ同シ莢ハ槭樹の莢ニ似テ長ク下垂ル

ニ礼備急本草成州の秦皮ノ

一種

おりしだ　日光

加州濃州常州奥州野州日光山中にあり葉は秦皮に同しく大葉小葉雜り小なるは胡枝子の葉の如く大なるは刀豆の葉の如し一莖五葉之穗をなして花を開く碎辨の小黄花横生れ日光及び會津にては土人この皮にて諸の器物を造る灰白にして白き斑あり

一種　　こもつむたらお

葉の形状柳の葉に似て薄く大葉小葉雜り対生れ梢に枝を分ち穗をなして花を開く形状秦皮に似て小く実も又秦皮ありふり

一種

めすりのき

葉の形前條に似て周りに鋸齒あり葉の先とれてすきこの如し

合歡

ねぶりのき 和名鈔　かうか 戸葉集　さねきし 同上

ねぶ 同上　ねむのき 京　ゑひのき 同貴船

ねぶた 江戸　ひぐらし 同外　合婚槐 典籍便覧

黄昏 本経 孝系　榮花樹 萬病 迴春　有情樹 群芳譜

椿 南齊 日札

原野に多く自生し高さ二三尺に至る枝葉全く葉ハ皂莢に似て頗る細く密なり其葉辰の刻に開き申の刻より合て決明又くさねむく同し夏月梢の葉の間に穂をなして一莖數十花を開く形状絲の如く末白色にして本淡紅色後莢を結ぶ扁くして編豆に似て長くして硬し中に子あり形皂莢に似たり

皂莢

かしらふしのき　本草和名　さいかし　万葉集　さいうち　江戸

ふちのき　さあかあし　石州　さいかいし　筑前

アカシアアユルユデラ　和蘭

此品文政年中長崎より一種の物を持来る長さ五六寸幅一寸許り直にして曲戻られ甚厚くして刀豆莢の如く潤澤あり中に実あり指頭の大さにして形海松子の如し試にこれを地に下さに芽を生ん葉の形和産と異り周りに浅き鋸齒ありて茎の本に付く葉ハ小く先に付く葉ハ大なるを竹葉椒の如く刺あり肥て短し夏月葉の間に長き穂を生して六瓣の黄絲色の小花を開く形ち和産と同し後莢を結ぶ形舶来の物に似て皮厚く肥て曲られ

一種

人家道傍にありて大樹とする春嫩葉を採り菜とれ形合歡の葉に似て粗大なり夏月長き穂を生して六瓣の黄緑色の小花を開き後角を結ぶ長さ一尺余まゝ一寸余莢皮薄くして屈曲してうねり中に扁き実あり此莢を莢し染物に用ゆ時珍の説に一種長而瘦薄枯燥不粘と云もの之

猪牙皃莢　集解

和産ふし舶来の物あり濶き四五分長さ三四寸厚くして尖り曲りて猪牙の如し

和産なく古渡の物稀にあり莢の形本も先も尖りて紫藤の莢に似て濶く厚く長さ三四寸又五六寸赤黒色中に赤褐色の実あり堅くして指頭の大きさ前に云処の長崎より来る物の中より生して樹枝ともに刺なし葉の和産の物より大に粗長くして後花あり形状又和産の物より少し大く莢を結べり形船底の物の如し此品上に肥皂莢成へし

肥皂莢

本草圖譜卷之八十四目録

喬木類

無患子	むくろし	一	鬼見愁 釈名 八重山のむくろし
一種	物印忙の圖	四	欒華 せんれんぼくの おとりしゆ
無食子	舶来の物	六	同 物印忙の畫
同	トンチウの畫	七	訶梨勒 舶来の物
同	物印忙の畫	八	同 同上
同	同上	九	婆羅得 不詳

欅	けやき	一種	十
一種		一種	十一
一種		一種	十二
柳	ゑたりやなぎ	一種	十三
一種	六角堂	一種	十四
一種	美濃の産	一種	十五
水楊	勾包やなぎ	檉柳	十六
白楊	むこや	一種	十七
一種		一種	十八
一種	さりやなぎ	一種	十九
扶移	でち	松楊	廿
一種			廿一
一種		一種	廿二
一種	いぼやなぎ	一種	廿三
一種		松楊	廿四
一種			廿五
			廿六

本草圖譜卷之八十四

喬木類

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

無患子

むくろじ　むくろ江戸　つぶ京　むくろうし筑州

むくろんじ越後江戸　もんげじ佐州　穗子正字通

楄木事物紺珠　銅穗実の名物理小識　鐵穗同上通雅

山野に多く人家にも栽す葉は山胡桃の葉に似て狭く鋸齒なく薄みして硬く一莖に六葉八葉を生ず夏月枝の梢に長き穗をなし枝を分つ黄白色の小花を開き後円き実を結ぶ大さ六七分熟すれば外皮に皺ありて黄褐色其皮をされば内に円き実あり色深黒にして甚硬く打ち破れば殻甚厚くして中に仁あり其外皮を俗にしやぼんと呼ぶ此しやぼんを煎し其汁にて衣を洗へば甚く能落る

鬼見愁 秋名

八重山の
あろむく
あろうぶ

石蓮子 南寧府志綱目 小云石蓮子ハイ シノミナリ

白色雲實
琉球田村光之

琉球八重山に産ほとゝ無患子の一種白色の物ゝ形むろろゝに似て扁ミく文化年中下種せしに二三の内一つ生れ其葉形むろろゝに似て一莖六葉或ハ八葉対生して細長くむろろゝしようにかしに枝幹深緑色莖に少し赤ミあり秋梢に穂をおりて花を開く形蛇痕門草に似て淡紫色後実を結ぶんとして形をなれ内に寒に向ひ寒を畏れて実成れ無暖國に養ふ時ハ必ず実熟れへし

一種

インチアンセユロイチール

メイニート　荷蘭

物印忙に載る圖形前条に似て枝幹ともに柔刺あり此圖にふるゝへ別物の如くミ甘れとも大ひに圖せハ同物ゝ

欒華

せんだんゆうのかだつしゆ　のちふ

ゐぬれかしのき　和名鈔　本の名　ゐぬれかし　本草和名　ゐぬかす　長次

欒木　通雅　欒樹　正字通　木欒樹　救荒本草

河内國名産あり又丹州の山中にも生ず武州にては東獻山中にあり葉は苦楝に似て大にして厚く黄褐色夏月枝の梢に穂をなして枝を分ち五瓣の小黄花を開き後苞を結ぶ形酸漿の房に似て頗小之内に黒色にして灰白の彩を帯ぶ正円にして大さ大豆の如き実三四子あり堅くして念珠に造れば且つ同名で葉の真中に実を結ぶ物は別物也

無食子

木食子　廣東新語　無石子　筆物紺珠

和産あり舶来の品あり形無患子の如くにして大に黒褐色にして白褐色の疣瘡あり質至て堅く重し

同

物印帀に圓あり其葉の形
櫟の葉に似て周りに鋸
齒なり樹皮黄褐色葉の
本に無患子の如き実あり
黄褐色にして褐色の疱瘡
あり

同

ドヽ子ウスに載る
畫形状前状に似て
鋸齒深く実の形
も前条と同じ

同
メイロバラヌス 羅甸
メイロバラーン 蘭物

物印忙に載る圖葉の形橢子に似て鋸齒あり実は橢実に似て黄褐色にして稜あり

訶梨勒

呵子 百一選方　柯子 保赤全書推子と同名異物

苛子 廣東新語　隨風子 旅宮紀聞

メイロバラヌス 羅甸　メイロバラーン 荷蘭

和産ハ漢土ニハ嶺北ニハ絶ニ乏シ嶺南ニハあるとなり此実舶来の物ニして形橢の実に似て長さ一寸余六稜ありて皮厚く外皮黒褐色甚だ堅し集解藤頌の説の隨風子ハ実未く熟せざるとき又ハ落たるを云ふ

同

同上に載る圖葉の形楊葉に似て鋸齒にして実の形前条なり同くして青碧色の筋あり

同

同上に載る圖葉の形前条と同じく実の形も前と同じく黄褐色あり

榉 けやき

九州の産を上とし其余諸国共にある樹長さ
れは高大にあらず葉は榉に似て小く葉の上に疣瘤
を生ず是其の異之樹皮赤褐色木理皆細き而
ありて堅く褐色なり又赤こあるのも何ら黄こある
も何ら又木理玉をなしにも何ら此をちらんもくと
つふ右を美し殿楼ならびに諸器物に造ル一種つー
けやきと呼ぶ物あり材はけやきより甚だ堅し

前条ある葉短くして
秋月紅葉をなす

一種

前條ある葉小く
秋月黄褐色をなす

一種　つき　つきけつき　つきのき

おれんつま 豆 又

槻　江陰縣志　同書 南斉志

葉ハ擇ニ似て毛茸あり秋冬葉の色黄色になりて落葉し木理細にして白く
擇より柔なり古へ弓材に用ひ造る此弓を槻弓といへり此物の葉干て物を
ミかくに用ゆ前条のめ――の葉ハ用ニ堪へれ

一種

葉の形前条の如くにして秋月に至り面黄褐色背は淡紅色におなるもの

一種

葉の形前条の如く秋月に至り面背ともに紅黄色におなるもの

柳

シタリ ヤナキ 和名鈔

ミタレヤナキ

たるたるき かわしろき

かわしろひろき

絲 群芳譜

緑鄉 事物諸珠

漏春和尚 坰

道傍人家庭除ニ栽ユ樹高サ二三丈ニ至ル春葉ニ先ヒ花を生ス長ト一寸許リ有黄色黄色ノ粉アリ隨テ葉ヲ生ス互生して長さ三寸許リ三四分周リ細き鋸齒あり表青色背淡緑色枝下垂たること

四五尺許リ 材柔ありて肌白く 丹枝又諸器ニ作ルベシ

一種

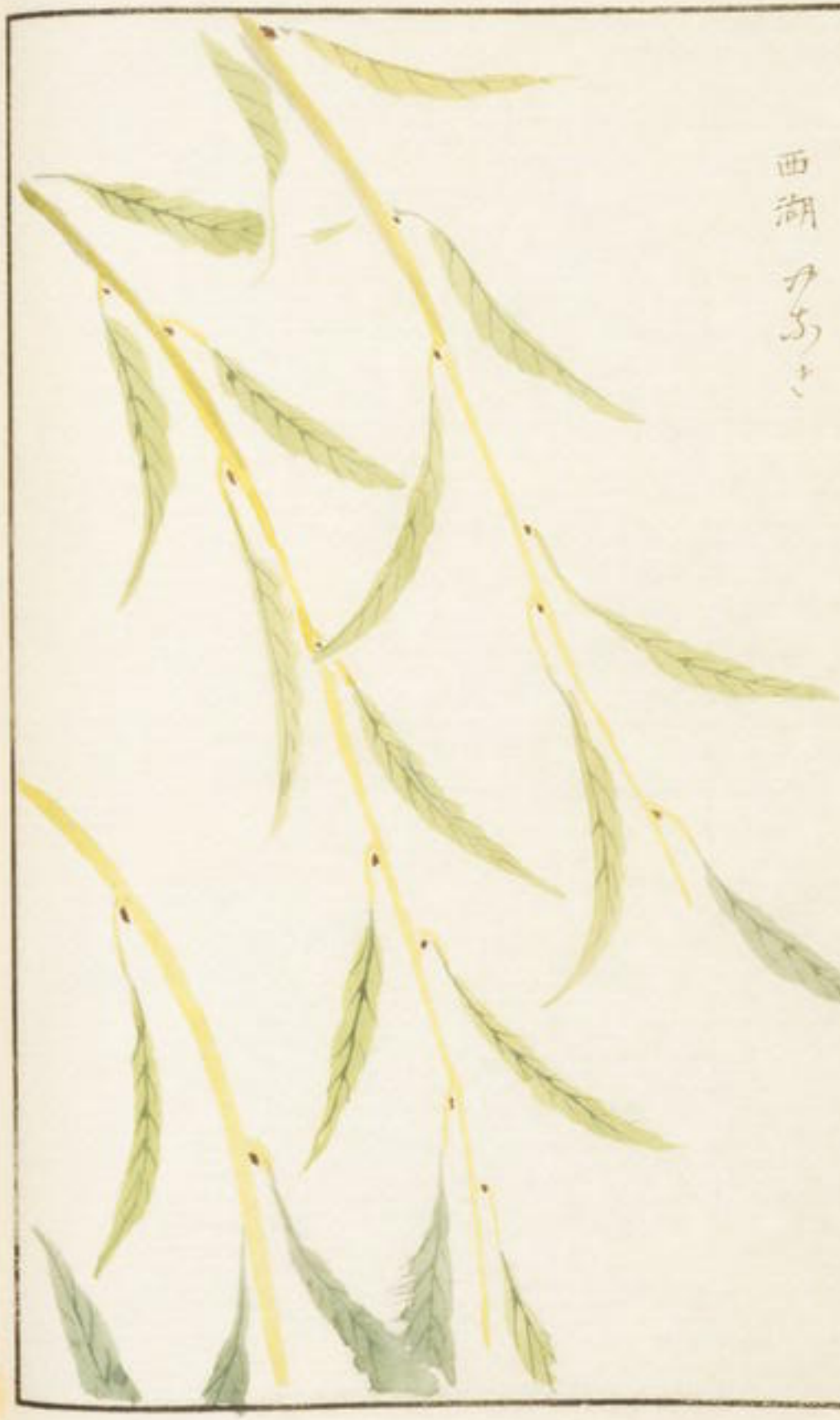
蜀柳

葉ハ柳ニ似テ小く長さ二寸許リ巾二分余花も柳ニ似テ細く短く枝細くして下垂するとも五六尺ニ至る

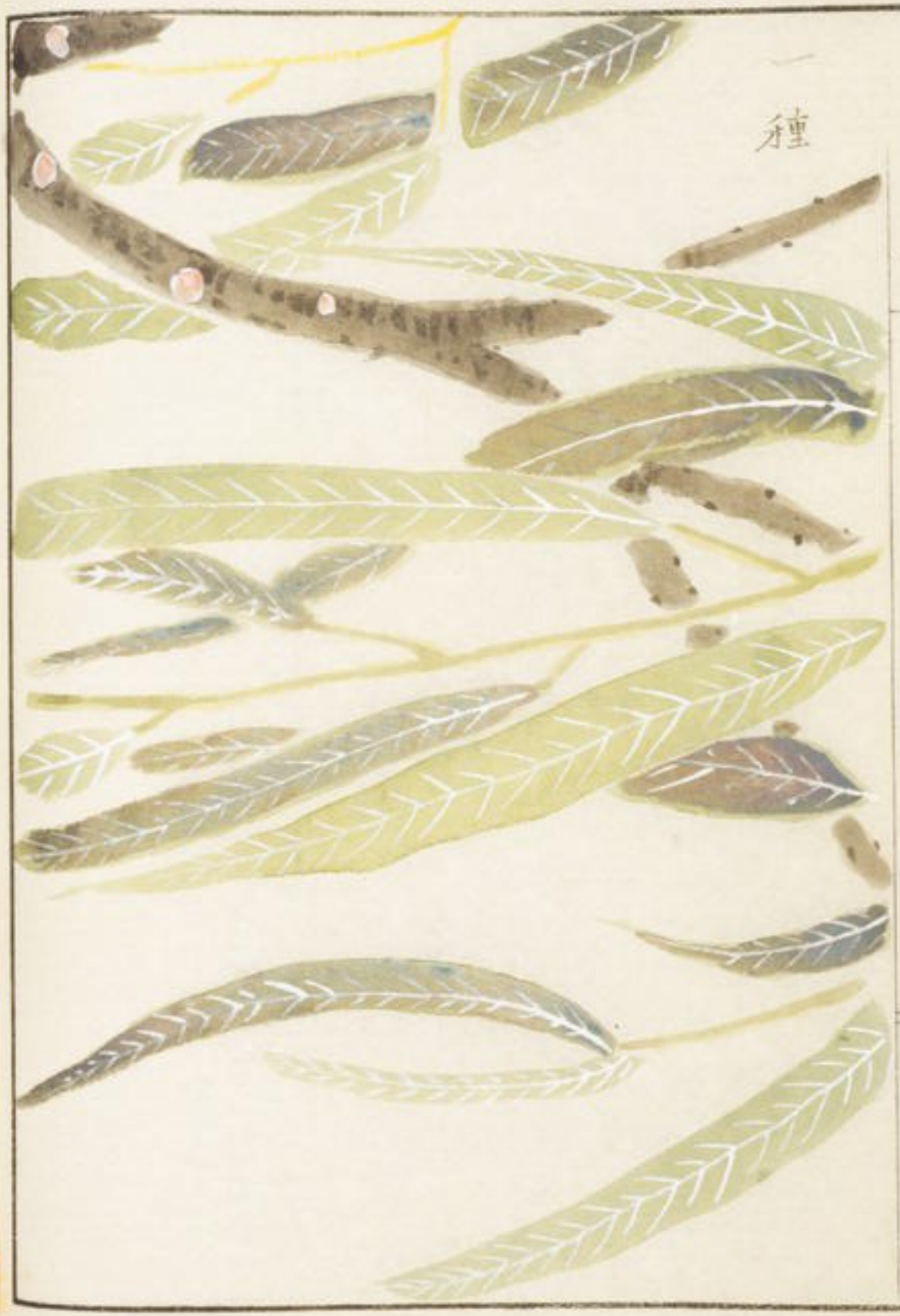
一種　六角堂

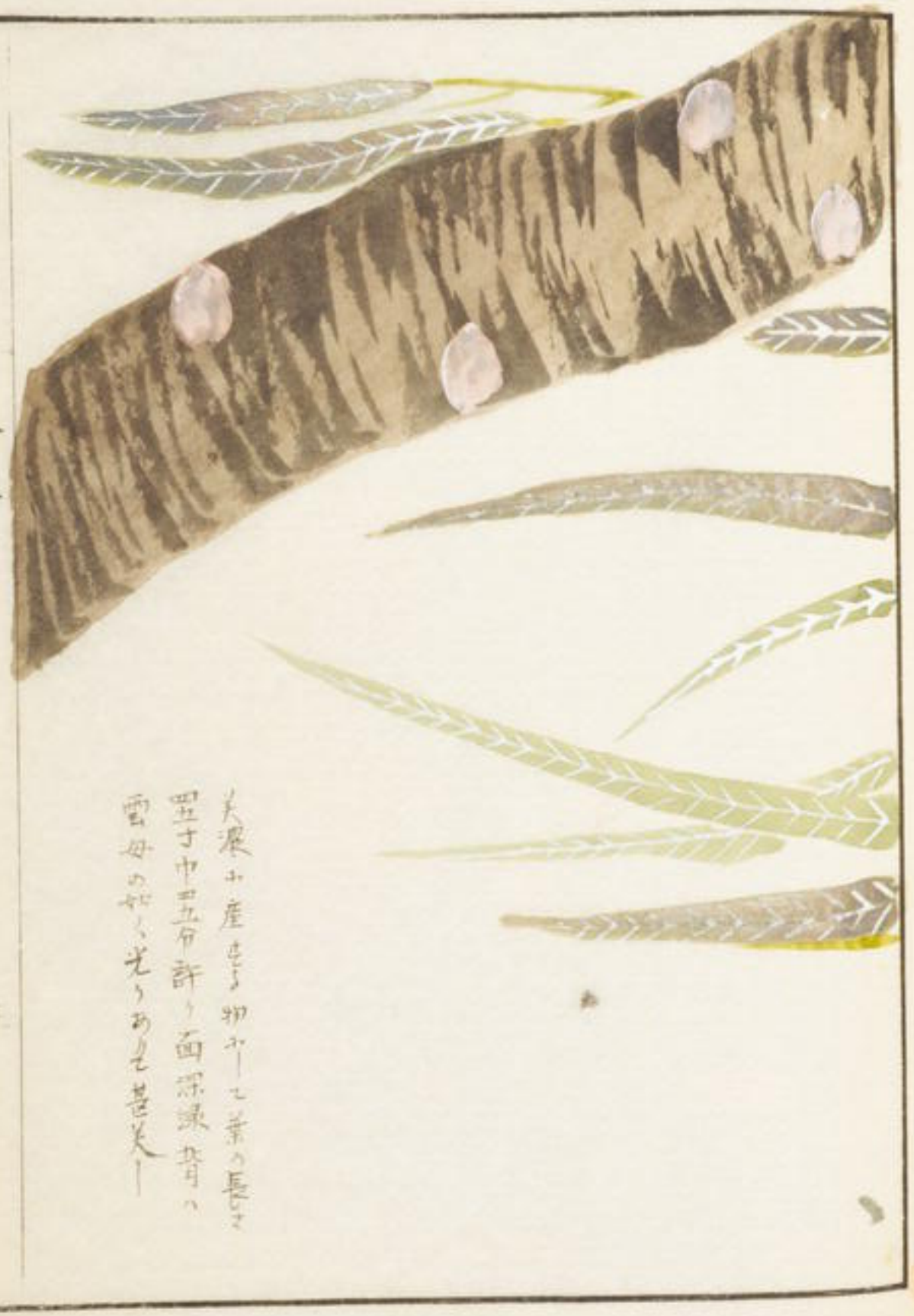
一種

西湖 みなさ

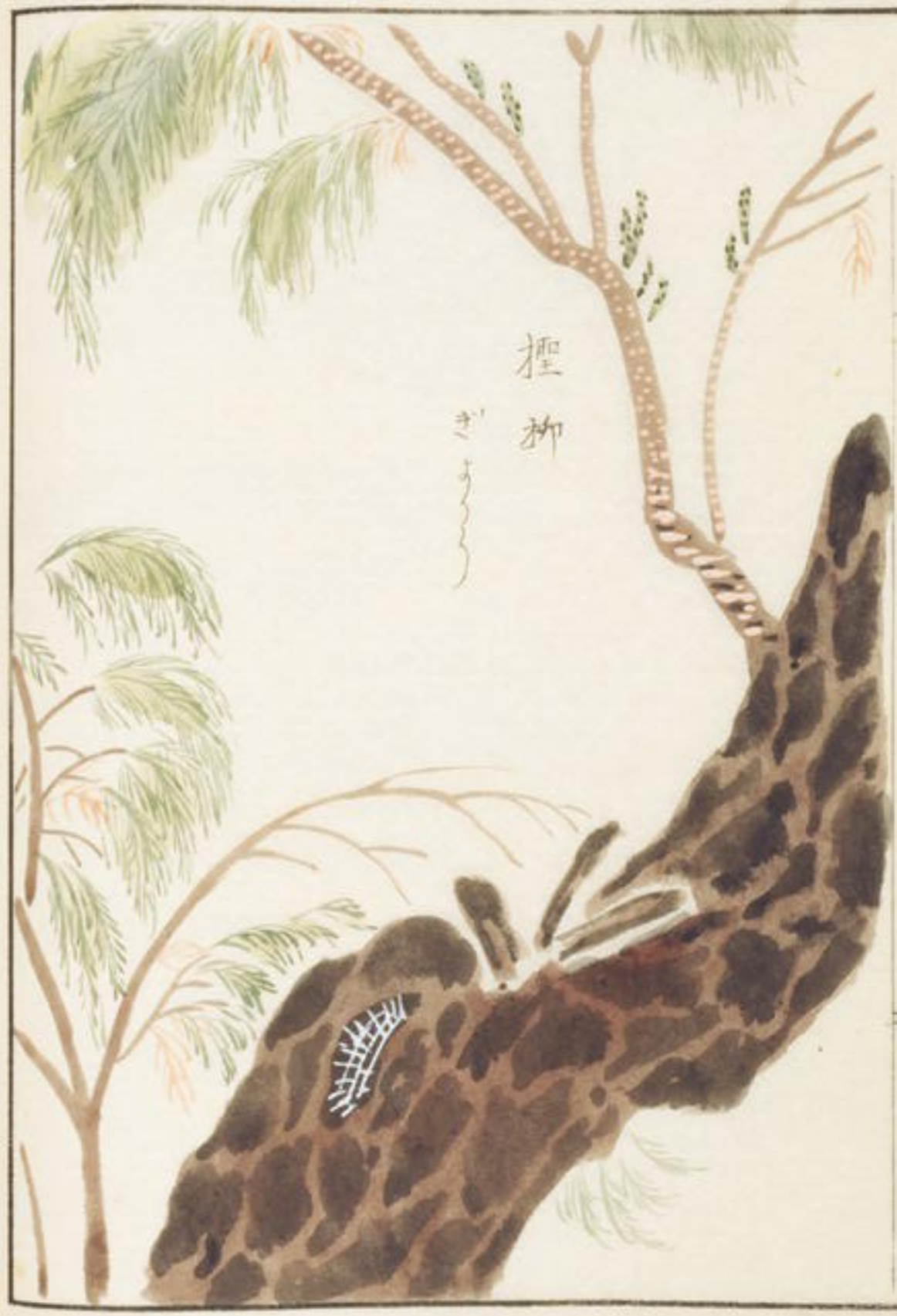


葉の形柳に似て葉の間短く葉の面深緑色にして光沢あり
背は淡緑色枝下垂きまを四五尺に至る花は柳と同じ





美濃に産する物にして葉の長さ
四寸巾四五分許り面深緑背は
雲母の如く光りあり甚美し



元和産ふし百年以前漢種始て渡り今世に多く人家庭際に栽ゆ樹高一丈余春葉を生れ形天門冬に似て長く細くして扁かなれ円く軟あり枝細くして糸の如く下垂れ夏に至れり枝に五六寸の穂をなし粉紅色の碎花を開きて美し葉霜後黄色にあつて落つ

水楊　かわやなぎ

みのあろやなぎ
あろしやなぎ
さろしやなぎ

水柳　群芳譜

花　萍　名物法言

水辺道傍に栽す又播蘿
とおれ高さ七八尺に至る
葉は桃の葉に似て小く
周りに細き鋸歯あり面青
色背灰青色初夏葉落
さす内あり花を生ず葉
落て大にあり外皮自ら
開破て筆頭の如き
柔毛生ず長して

長さ五分許り淡
灰白色毛の中あり
細き粉出す

一種

人家庭際に栽ゑ
前条より葉大く
長さ二寸許り幅一
寸許り鋸歯粗く
枝葉ともに白毛あ
り葉の本に鍔の如
き葉を附く花ハ
前条と同じく生し
春に至る長ゑれハ
二寸許り大さ大脂
の如く形狗の児の
尾の如し長に隨て
毛の間より細き紅色
の足の如きもの

を生し後黄色と之に
落る此粉人衣に粘れ也

白楊

すゝあや 新校正
まるそやなぎ
いぬやなぎ 同上
ふかなぎ 拾玖
ゆまなぎ 本草和名
ゆまなぎし 武玖八王寺
つらなぎ 播玖
いぬなぎ 薩州
ゆまなぎ 本草和名
いぬまり 筑紫
あめなり 信玖尾玖
白楊樹 救荒本草

山野陽地にあり　高さ四五尺より一丈余に及ぶ葉は円くして烏臼木の似て微し脊に白毛あり周りに鋸歯あり　此葉風あり時は音あり故にかぎなりの名あり春新葉に先ち花を生ず　形なりまゝに似て至て長大之木理白くして莒之芽枝に造る　又一種丹花に大葉物あり　花の長大なり

葉ハ白楊ニ似て長し嫩苗淡紅色を帯ふ樹高ク二六尺ニ至る藝只ニ此葉を取り皮を去りあるを皆ニ作る也へまこ也あきとあり又ゆゑ也あきとも云花ハ開発形状とまゝ白楊と同し

一種

いとやあぎ

葉ハ水楊ニ似て嫩苗紅色を帯ひ葉の面青色春月花を生ひ青黄色にして長さ二寸許り山中岩石の間に生ひ

扶桜

どろ 松前

とろのき

ひとけき 越後

とろふ 羽衣

越後 奥衣 羽衣 松前 ホの地にあり葉は白楊に似て大に背に微し白毛あり形おのずるらに似て深紅色長さ五六寸許り下垂れ冠くときは白色となり糸の如し此樹にて神佛の像を刻む に多く用ゆ因て ひとけきの名あり

松楊

ぢゝやのき　筑前有 同名

唐ひハ　四回

きじゝや　豫品

棶椋　呂宋 箋

梓子樹　枚荒 本草

紀外及ひ筑紫其外四國等にあり樹皮鱗甲を出し松樹の皮の如く葉ハ柳に似て細く周りに鋸齒あり夏月枝の梢に穗をあり枝を分ち小花を開き後実を結ぶ形円にして小く椒粒の如く色黒く此材堅くして美理ありて淺黄あり木を煎して物を染むれを筑前にてちゝやをめと云

樹花ともに前條と同しく
葉ハ前條に似て円く莖に
赤しあく青色あり

一種

本草圖譜卷之八十五目録

喬木類

榆	サみたん	一種	二
一種		一種	三
榔榆	あきにれ	蕪荑	不詳
蘇方木	すはうり 物印帋に載る圖	一種	同上
一種	同上	一種	同上
烏木	ちくたん	同	琉球の圖

樺木	かむ	十	同　皮の図　十一
綟木	ねちき	十三	一種　をのき　十四
櫚木	くしりん		一種　つふくしりん
椶櫚	しゅろ	十五	一種　とうしゅろ　十七
蒲葵	びろう	十八	橉木　不詳

本草圖譜卷之八十五

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣泰　校

喬木類

榆

やゝれ　和名鈔　本草和名　たるふれ　ふれ　ねり　妙許ふれの縫ふり

ねれ　本草日上　あかおも　松前　やまり　北　ツキリニ　蚊天

イヤツプ　アフシヤニ　佐小日上　鑽天　榆　通雅

韓鞋樹　日上　榆　錢樹　蚊荒　本草

一種

一種

一種

榔榆

あきあれ　ねれのき　いぬなゆき 阿州門名あり

かるかけゆき　榎 通雅　郎榆

挾榆 共上四上　野榆 江南圖史

大樹とする葉の形ちるみれより小人ふのきの葉に似て辺に鋸葉あり秋月葉の間ことに小花を開く形状ちるみれの如く房をなしもも亦同し後実を結ぶ又ちるみれの如し皆白色にして硬くふたりしと同し車の殻又箱の揮に作る

物印杞に載る因葉の形
蔓荊の葉に似て円く長き
ありて深綠色あり樹反福
色中心紅色枝の稍に五瓣
の紅花を開く大さ二三分
あり南方草木状に樹類槐
黄花黑子と云に類に唯
花色異ならいとん

蘇方木 ほうしき 和名鈔

多邦 明一 紙名

紅木 東西 洋寺

巴勝居 日本石 宮田

蘇枋 南方草木状

サンダリユム 羅甸

サンデルホート 荷蘭

同書に載る圓葉の形や貞の葉に似て尖り葉の間にしに実を結ぶ円くして大さ指頭の如く生ある時は緑色熟それは黒色となる蘇恭の説に自南海崑崙来而交州愛州亦有之樹似菴蘿葉若榆葉而無涙抽條長丈許花黄子青熟黒とき花あり

一種

同書に載る図 葉の形
ちがりすぐに似て木の心篇
ふう

同

蘇方本和產にして枝ハ細赤の物ヲ長サ二三間圓サ二三尺外皮ハ白色中心ハ紅色ニ木理直にして本に氣を吹入る時ハ赤に通ル古渡の物ハ色深紅ニ新渡の物ハ色黄赤ニ之れ若木の物と見ル歟樹をけ雲茉用染用とにして又楊弓を造り又著を造る小笠原嶋の記に見ゆ蘇方なり大木ハ色濃く小木ハ色淡しと云へり

烏木　ふくたん　檿木　五字通　急木　闌木　共ニ同上

角烏　廣東新語

和產にしてふくたんと云へり白檀紫檀の類にあり乃枝ハ細赤ヲ木の色黑く漆の如く黑物に似て木理にして甚堅使し諸の器物に作る一種をしてふくたんといふあり これハ皮に近き処の物なるべし

琉球の図ハ葉の形冬青ヨリ大ク桃葉珊瑚ニ似テ狹ク光用ノ中山傳信錄ニ海水葉如蓮直上外異常木不異中心木質黑色赤ク有白理者ハ之ヲ說英ニ図ニ因テ考ルニハ時珍ノ說ニ葉如蒲柳トアルニ合スレトモ其木ノ形狀ヲ明ニ云ハサレハ時珍ノ說疑ハシトスルナリ

樺木

かば　かばのき　しらかば　しらかばのき　ちゃかば　魚

うだいまつ　蒜　かれば　樺皮　物理小識

樺桃 薬品詳註　鵲　樺皮 明一 洗毒

西南ノ國ニ無ク東北ノ國ニアリ其内野州信州甲州ニハ多シ葉ハ桑ノ葉ニ似テ大ニ堅ク闊リニ細キ鋸齒アリ春夏ノ間葉ノ本ニ徳ヲ為テ長サ二寸許リニ白色ノ花ヲ開キ後実ヲ結ブ形ち椿ニ似タリ秋ノ末ニ熟シ落テ生ル房ノ葉ハ霜後ニ落ツ樹皮白シ黑キ班アリ肌ハ滑ナリ下ノ皮ニ似テ他木ニ異ニシテ甚タ剛ヤカニ信州ニテ薄ク剝テ器物又ハ短冊ニ作リ山凡四州ノ人此樹皮ヲ以テ燈ヲ為ルニ西甲ノ松火ニ作リ用ヒ又鷄鵝ヲ使テ魚ヲ取ル時リ用トスルナリ　だいまつ　ヒロ　樺皮ハ木ト異ニシテ脂多キヲヘ水中ニ入レ大西ニ送ル　ちゃ　者之　蘭山甲州徳本ノ無冬藏ヲ引テ同書ニ樺皮ヲ多ク用ヒ故ニ今世ニ用ヒル者多シ此モ境ハ真桑アリ故ニ人ニ桑ト呼ル又同書ニ樺ヲ隱ニシテ華ニ作ル云リ先ニ出ルモノ菜部菌類ニ云ル樺皮ヲ以テ菌ニ當ル者ノ意ヲ解ルヲハ其物ヲ集解ニ其皮ヲ蜕皮ト云ル説ハ誤リトスルニ易別寄志及ビ四京通志ニハ樺木ノ重皮ヲ蜕皮トスルニ因テ共相違ヲ知ベキナリ

樺木

樺木皮

綾木

ねぢき　ねちのき 丹後　あかねり 若州

かしをしるのき 京　かしをしる 三才圖會　かしをし

かしをしる 雄州　さるのさいだし　ぬりだし

めしのふのき　さるなめし 水戸

山中に多し樹皮百日紅に似たり木理白く薄黄色なり大樹となれば木必ず炭り小木の内は直上に春月葉を生ず初生紅色にあり長ずれば緑色となる形百日紅の葉に似て尖りあり新枝赤色にして光りあり朱漆の筋の如し故にぬりおしてしるし夏月枝の梢に穂をなして花を生ず形だるなんつしの花に似て小く壺の如く薄紅色なり花後実を結ぶ大さ小豆の如し此樹炭となして漆壺のときたしに用ゆ此炭を用ゆることなし

一種　ちのき京　らくひちのき

信州草津及ひ豆州下田野州日光おふ　あり葉の味ひ甚た
酸し形円ケて大々二三分許り周りに細き鋸齒あり嫩苗ハ
紅色を帯ふ春月葉の間ニ紅色の小花を開く形だらだん
つゝしの類

櫚木

くるりん　花狸 廣東新語　花欄 [illegible]

和産ふし樹ハ船未あり木理紫檀に似て紅紫色堅くして気孔あり削るに甚た逆理をふれなく削り難きしかん此樹を以て三弦の胴に造り又器にも造に俗に和にくるりんと呼ぶとりハ果の部檳榔なり

一種

つゝくるりん

和産ふし前種と同しく船未の物あり木理くるりんに似て少し柔らく肌紅紫色の中に朱をさしかし無し此物も三弦の胴に作る上品へ又器に作る

椶櫚

しゅろ　比櫚 通雅　弁閭 [illegible]

苔兒木 [illegible]

樹直聳して枝なく梢に月々新葉を生し四時凋まれ一葉の形手を開くが如し夏の初梢の葉の間に膏を生れ外皮あり形岡黍の実の如し長さ五ハ外皮落て顕る形黄子の如し初黄色花開く時ハ淡黄色とかゝる花瓣甚微かしに見易かりは後実を結ぶ形いんりんよめに似て短し熟をれハ黒褐色とかゝる下種しと生し易し此樹材とかし水に入て久しく朽ちは木理頗るタガヤサンに似たり外皮の毛をとりて滑とかれ又ゆうきに作る此樹を多く養ふ時ハ民用に利あり

同

木の形

一種

とうちゅう

木の形ちゅうと同しく葉も形同しと いへとも短く粟く硬くして年を重ねしとも下垂せしして直立隆若実も前條と同し外皮の右をとり用ゆるを此亦前に同し

蒲葵 集解

葉の形梭欄に似て葉の本より今れ月長さ五六尺莖も四五尺に至る莖三稜にして本に刺あり花実ハありといへども未だ真物を得されハ図せん説に実を割ハ粉の如き物ありといへり此葉を以て扇に造る此をあらやうかんと云又笠に造りこれを割りやうりさといふ扇に造る物舶来の品並に薩州よりも作り出る

本草圖譜卷之八十六目録

喬木類

柯樹	しい	一種	二
一種		一種	まてバしい
烏臼木	とうぢや	巴豆	舶来の実 六
同	舶来写真 七	同	舶来の実より生ずる物 八
同	同 九	大風子	舶来の実 十
同		海紅豆	物印帆の圖 十一

相思子	舶来の実	十二	
豬腰子	不詳		
灌木類			
桑	くわ		
白桑	同上	ふわうくわ	十五
一種			十七
一種		むらさきくわ	十九
同	物印花の圖		十三
石凡	同上		
山桑	集解	まうくわ	十四
雞桑	同上	あさくわ	十六
女桑	同上	いとくわ	十八
一種		もみしくわ	廿

本草圖譜卷之八十六

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

喬木類

柯樹　ゑい　ゑいのき　株樹 開書　珠樹 泉州府志

株子 開書実名　椎子 同上

諸國山中ニ多シ樹高大ニ至る葉ハ櫧の葉より狹く長くして薄く硬く面深緑色背褐色ニ夏月花を生し実を結ぶ莖なりて一処ニ四五顆を結ぶ櫧子と異ニして殼をふさぬ皮をふれ比皮の面鱗甲あり熟を水ハ開きて中の実出る形状蟲の子ニ似て小く細し炒ハ殼まけて仁顕る此仁を食用とあり

柯樹

一種

葉の形状志いふ似て幅狹く短きもの

一種

葉の形状志いふ似て幅狹く短きもの

一種

まるをしい

葉の形状しいに似て至て大に長さ六七寸濶さ二寸許り実もて大にして長さ一寸許あり

諸國ともにあり葉の形紫蘇に似て小く嫩苗の時に紅色にして美し長きれハ綠色となる夏月枝の旃とに穗をなす長さ三四寸花開くときハ黄白色にして栗の花の如し穗の本に実を結ぶ形円く微し扁にあり形蟹隨子に似て三の道あり初綠色熟すれハ黒褐色となるこれを破れハ三子あり外に白き粉ありて核を包む此実より蝋を採り蝋燭を造る

巴豆　匹人　本草和名引蘇恭説　不辛　蜀巴　其に同上

ガラナ　ケクリア　俗例　アメリカアンセ　ウラントルホーム　和蘭

和産にして実ハ舶来あり形海松の子に似て黄褐之用るにハ修治に説処ろの如く皮を心とを去り仁を用ヨ其心ハ仁中にあるに芽之心を去されハ吐を発する故之其仁の用ひゆゑ炒りて研り紙に包ミ壓して油を去るべし然らざれハ毒甚だ強しこれを巴豆霜と云略して巴霜とも云本邦にて霜とはときハ黒焼のことを云なれハ巴豆の黒焼を用ゆるハ誤りて飲脂に要に巴豆を厥せるに蘆筆野猪を食ふことを忌といへり

文政年中蘭人肥前長崎へ東亞黑利加州に産する処の巴豆の写生を持ち来る其形状莖紅黄色にして互生は葉は胡麻に似て濶く又苧麻の葉に似て尖り周りに跡き鋸齒あり枝の梢に穂をなして数顆を結ぶ縦に稜ありて瓜に似て小く又壊随子に似て一顆に三箇を包む子の形状舶来の実に似たり花の形は圓せはといへども蘭人の説に花は穂をなしこと韜の如く其色珊瑚の如し枝葉を切れば白汁出るといへり是即ち頃の説に今嘉州眉州戎州皆有之水高一二丈葉如櫻桃而原大初生青色後漸黄赤至十二月葉漸稠二月復漸生四月蕾葉落盡新葉齊生即花發成穂微黄色五六月結実作房生青至八月熟而黄顆白豆蔻漸々に自落乃收之一房有二瓣一瓣乙子或は三子子仍有殻用之去殻といへるに由て考れば花の形色相合れとなり蘭人の説ふるに由て暫く載は時珍の説に由て考ふれば能合りとれ其説は子及仁皆似海松子と云り茶説に由れば頃の説の花実の形状は違りとなれば

同

舶来の種薩州へ渡り生して実を結び其実江戸に来り生ずる物あり樹直立して枝葉互生し一葉の形状櫻の葉に似て厚く光夫り嫩苗紅色を帯びて美しく猶に穂をなして一瓣の小さ白花を開く形あるのきんぢの花に似たり実は結ぶといへども熟さず此物の形状を以て前條の写真の圖を考ふるに葉の形状は相似たり花色の異ふるに同物にして花の色のこと変るものなるべし

同

真曲瀬氏の所藏の品に
して葉の形前條に似て
鋸苔ある葉と同葉の如し

雖り生れ梢に穗
をなして菊花の如き
小き黄花を開く花
へ前條と異なる又同物
とつへきも花の麦のなす
ありぐし

大風子

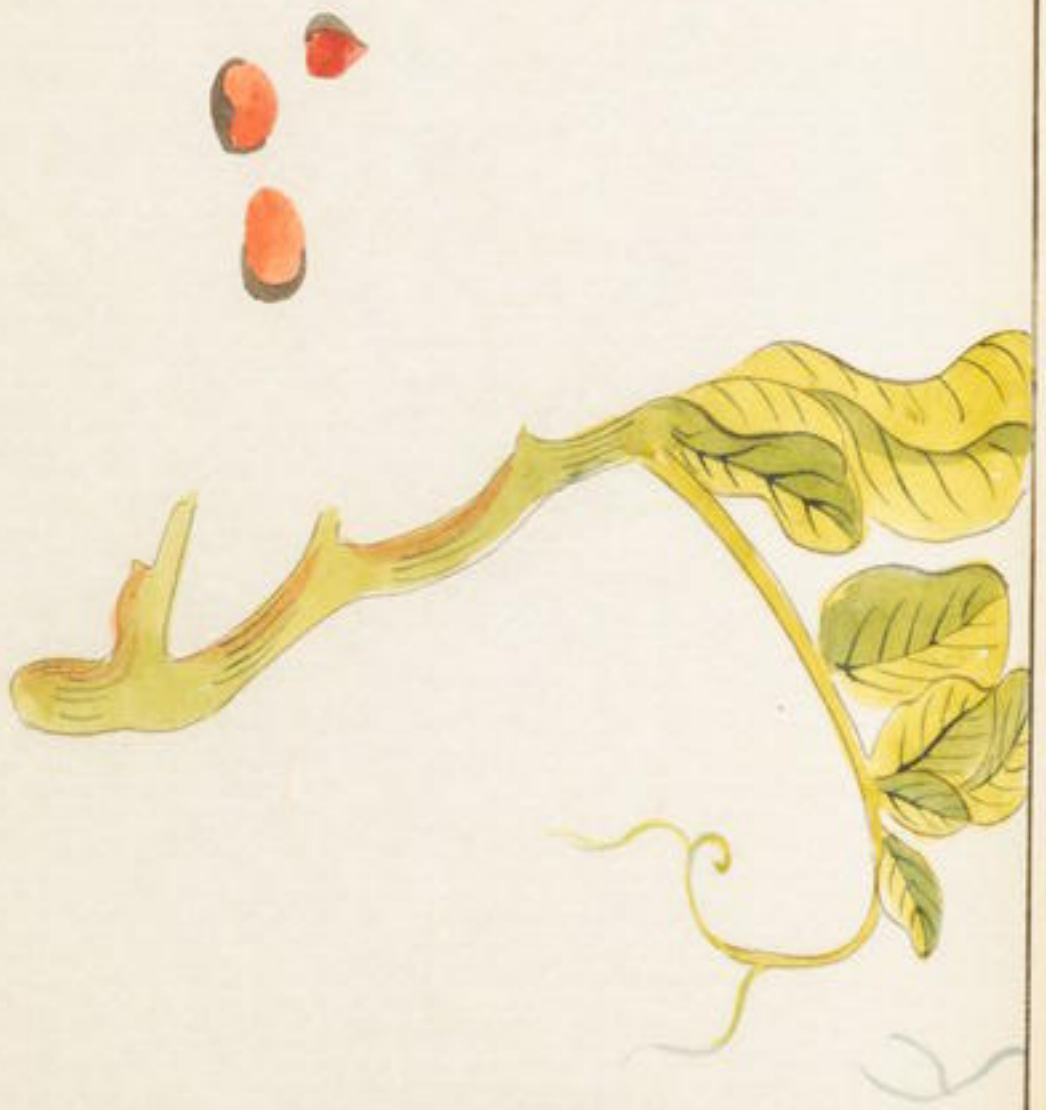
和産なし船来の実あり形状無患
子に似て外皮皺紋なし中の実人無
患子に似て赤黒色又蘭山の説に
和俗に水を雷丸と云ひ油を雷丸の油
といふ又油桐の油をも和の雷丸の油
といふ皆誤りといへり然名時珍の説
に能治大風疾故名といへり此説に
由て雷丸油桐の実にを用ひへからず

舶来の書に載る
田吻状石榴に似
て中子大に数子
を結ぶ集解の説
に状如椰子而円
其中有核数十枚
大如雪花子中有
仁白色久則黄と
云へるに合へり

海紅豆　とうぢんまめ　りうきうまめ　とうまめ

和産にし稀に舶来あり其水の形状物印帀に載る図あり葉一莖に
対生し一葉の形蚕豆の葉に似て小く円く枝の先に鬚を生れ猶に
花を生れ形豆の花に似て白色人莢ハ扁豆に似ると中子もまた
ぶしまめに似て深朱色に黒紋あり集解に扁祁益部方物圖
を引て紅豆葉如冬青而円沢香開花白色結莢枝間其子
累々而緻珠若大紅豆而扁皮紅肉白と云へるに合り

海紅豆 スーツクエルウエテン 蔔和の類



相思子　とりあづき　なんぢんあづき　てんちくさしげ

相思子　秘傳花鏡　赤小豆　花曆百詠　紅豆同名

美人豆　上同　紅鬪木　雅妙　紅玦

和産あり　実ハ舶来の忌待ニ似ル形赤小豆ニ似て半ハ黒く半ハ赤色ニして甚硬く蘭山の説ニ古ハ京師の一樹荒とす今ハ亦しき葉槐葉ありて小く合歓葉ありハ大いありと云傳ふと云ひ

同

ストソクエルウユテン　荷蘭の類

物印忙ニ載る固葉の形槐葉ニ似て小く円し葉の間ニ穂ニ成して実を結ぶ肩豆ニ似て短く円しあり中子赤小豆ニ似て半赤半黒あり集解ニ其葉似槐其花似兒葉其莢似扁豆其子大如小豆半

截紅色半截黒色とりつゝ合り

灌木類

桑

くハ　和名鈔大和本草ニ人古ヒ食ハ食ニ葉ヒ云ヲ有ルヒ云ヲ

頗根　本草和名引雜要訣

扶桑丹　日上引七卷食經

南庭樹　名物方言

蠶食　同上

桑椹樹　故荒本草

葚　正字通以下實の名

麩　同上

人精　医学入門

寶砂龍芽　吾祖全書

モリニス　羅甸

ムールベシーン　和蘭

民家栽て桑を飼ふに用ゆ種類多し樹に雄雄あるて實を結ぶと結ハさるとあり葉の形状に因て名を分つを果解に隱て此下に分つ百に載る物ハ桑の想名なり

山桑　集解

まくわ　まるもくわ

樹高さ一丈餘に至る春月葉に先て莖の芽を生ず長さ一寸許り形栗の穗ふにたり長さ九ハ黄色の小花を簇生ず隨て實を結ぶ形状魚子の如し初青く半熟まる時ハ紅色弥熟を丸ハ紫黑色とおを味ひ酸人甘し葉ハ花と開くに隨て花の本ゆ生ず延長し枝をあれ一葉の形櫻に似て厚く大に長さ二寸余先と加る又拆に花ハをあれをうゝ生ず秋に至り黄色とおして落葉ハ時珍の説に山桑葉尖而長といへり

白桑 集解

ましろくわ

高助くわ

魯桑 華林廣記

葉の形まるハ小似て甚細く
大之幅七八寸長さ一尺許ノ午
房の葉の如し此西花を開く
といへども実を結ぶと称之
乱雄木之時珍の説に白
桑葉大如掌といへり

雞桑 桑解

あさミ人ハ外

とうさんも 八丈 方言

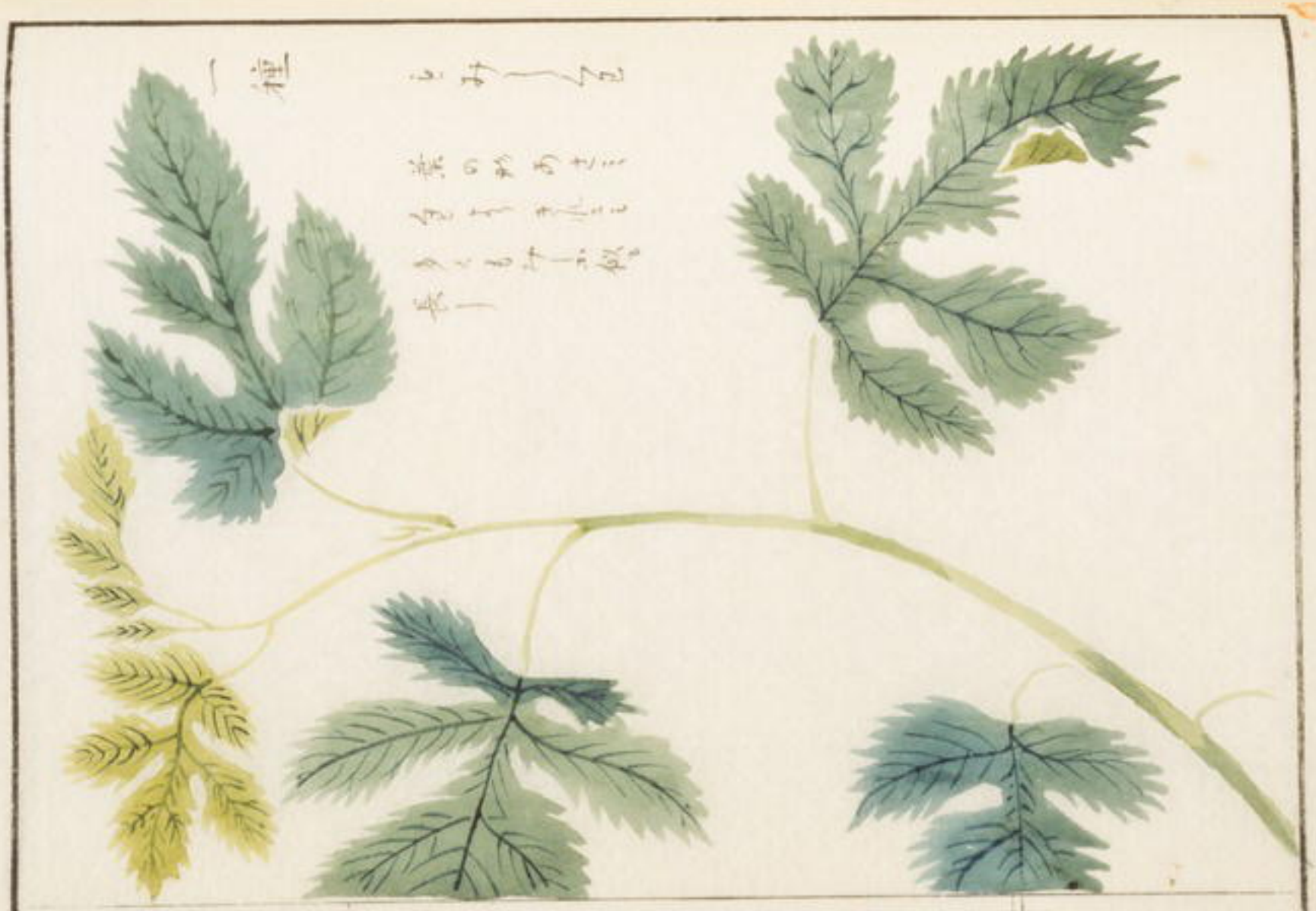
さしんハ 外

せりんも

花桑 注 沼

葉の形構成ハ野菊の葉に似て花又あり此品実を結ぶを甚多し是唯木ある聊人時珍の説に雞桑葉花而薄と云又子桑先梅而後葉といへるに合りた子桑の葉の形状集解に説ぶしとつゞき唯実多抑を云ふあるへし

本草圖譜 卷之八十六
一種
技幹軟弱ふして細く
瓜の葉ハ前條の如く
稍ゝ長て六七葉ハ前
條の品彦功迄蓋九
深く甚しき小並て條ハ
如人ゝて美し此物
根の外皮紫色ゝて
美くし



桑根白皮

茶席にて生の桑白皮と云ハ黄色の皮を落る物真なり新しきを用ゆへしさらしと呼ぶものハ楮根を用ゆるゆへ忍らひ用ゆくし先ハ自ら桑根を堀り取り用ゆるを宜しとは茶用にハまん色の根を用ゆるを上品とは形状外皮ハ正黄にして心ハ白色迄ると数尺に至る

皮中白汁

田村氏の説に新しき桑の水の皮を取り焼て其滴る汁を取り用ゆ竹瀝を取る法の如く其滴立方に此を桑瀝といふとなり

桑柴灰

桑の水並枝を焼て灰とす物也

桑耳桑黄

桑花

桑胥生

桑柴火

桑螵蛸

桑蠹

此六種ハ各條に随て出ス

本草圖譜卷之八十七目錄

灌木類

柘		奴柘	一
楮	かぞ	一種	三
一種	云めかりそ	構 解集	四
一種		枳	六
一種	かぶち	枸橘	八
一種	云ゆり	巵子	十

一種　十一
一種　まくちぶし
白棘
一種　物印花に載る圖
山菜萸　さんしゅ　十五
胡頽子　しろつぶ　十八
金櫻子
一種　さんせうむぐら
一種　けんたき
酸棗　たきぶい
粧核
一種　口上
一種
木羊夏　集解　ちつくし
一種

本草圖譜卷之八十七

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

灌木類

柘

集解宗奭の説に無刺者良と云に由て考ふるに此品に充つべき物また見れ古すがまくは一名のみと云る者を充とゝへども此もの尋常の桑に似て少しく異なるのことゝ云へ事し真物を得されハ爰に畧れ追て補ふべし

奴柘　ムホとぎ

武刕駒場官園に大樹なり高さ
丈余樹皮刺多く皂莢の如く
枝ハ一葉に一刺あり葉円くして
先尖り互生して大さ一寸許り
四時ともに凋まれ枝の葉の
間毎に穗をなして小黄花を開き
後ち実を結ぶ熟せ時ハ紅色となる

楮　かぞ　かうぞ

扁穀　通雅

楮桃樹　救荒本草

集解に楮と構とあり元一類二種あり楮ハ諸國に多く栽て以て紙に作り
出れ樹高さ丈餘皮の肌素に似て黄白の斑紋なり葉も又桑に似て片方
へ岐をなれもあり両方岐をなれもなり又円葉にして微し毛あるもなり
皆一樹にして変葉をなれ夏月葉の間に円き実を結ぶ形指頭の如くにて
紅き蕊ありこれ蘋茶の説に斑穀なり備急本草の圖に葉に叉なき物を
漉而楮実と云又なるものを明及楮実となれ

楮

一種

葉の形もみし
くさに似て背に
微しもあり

一種

いぬからぞ

いぬからぞ 芸城

葉の形からそに似て
窄く微しもあり以上
三種ともに皮を剥て
紙に造る

構　集解

かぢ　和名鈔

かぢのき

穀　桑　通雅

樹高さ丈余に至る樹皮桑に似て班文なく葉も桑に似て兩面ともに微毛あり大さ五六寸形葡萄の葉の如し夏月実を生ぬ指の大さにして長さ一寸許り熟せれば赤し横頌の説に葉如葡萄といふこれなり

一種

樹皮ともに加ぢに似て葉の形円く先尖り実も円くして江紫色の毛あり

枳

きこく　時枳 本草和名 引雑要訣

玫實 玉扁

槌胸霹靂 事物異名実名

蘋頌の説に木如橘而小高五七尺葉如橙多刺とゝへるもの昔時漢種渡りて本邦に多し樹葉ともに柑に似て木に刺多し葉の大さ回青橙に似て小く柑より大なり夏月五辨の白花を開く形柑に似て大く後実を結ぶ熟せれハ黄色にして大さたいくよりにあり味ひ甚悪く茶用の枳実と称せるものハ小なる時採を宜しとれ此を本草原志に聳眼枳実と云ふ枳殻と云ふ物ハ秋に至り長せる物をとりて製せる物ハ枳実枳殻ともに漢渡の物とゝへとも疑物を雑ぜ和にも又疑物多し枳実の真を分つにハ穣を数多くして十二三あるを真とし且枳実枳殻両品ともに外皮黒色にあるとゝへともこれを刻る時ハ青ミあるを真として別つへし

漢種の物

一種

田村ノ説ニ肥後の玉名郡小天村宇土郡綱田村肥前長崎薩而ニあり樹も葉も橘ニ似て刺多く実ハ橙の如くにして小ニ生ずる時ハ青く熟せる時ハ黄色なり味ひ甚苦くして香気あるといふ此品前柔の如く春月葉の中ニ五瓣の白花を開く形抽の花ニ似たり其実柚の如くにして味ひ甚だ苦く食ふへからず豆腐にて此実を酢を採て用ゆ

枸橘　からたち　けそ　筑前豊後　しやけつくひ　備前

俗ニきさくと昔時よりの誤りに樹高さ丈余ニ至る樹の肌抽ニ似たり春月葉を生し新枝を為ス葉一葉生ずる毎ニ一刺を生ス葉ハ一莖三葉にして胡枝子の葉の如く厚くして硬く細き鋸歯あり深緑色背面も光澤あり春の末枝の梢ニ花を開く白色五瓣にして大さ一寸余後実を結ぶ皮厚して緑色ニ小なる物を採て枳実ニ偽る秋月ニ至て熟せれハ黄色となる肌細りにして皮薄し切て穰を去り枳殻ニ偽る

一種

樹の形屈曲して蔓の如く葉ハ甚だ細くして見ゆるし刺も又細くして屈曲せり

巵子

ムちなし　和名鈔

大巵子　本草原始

黄梔花　寧波府志

肥梔　本經逢原

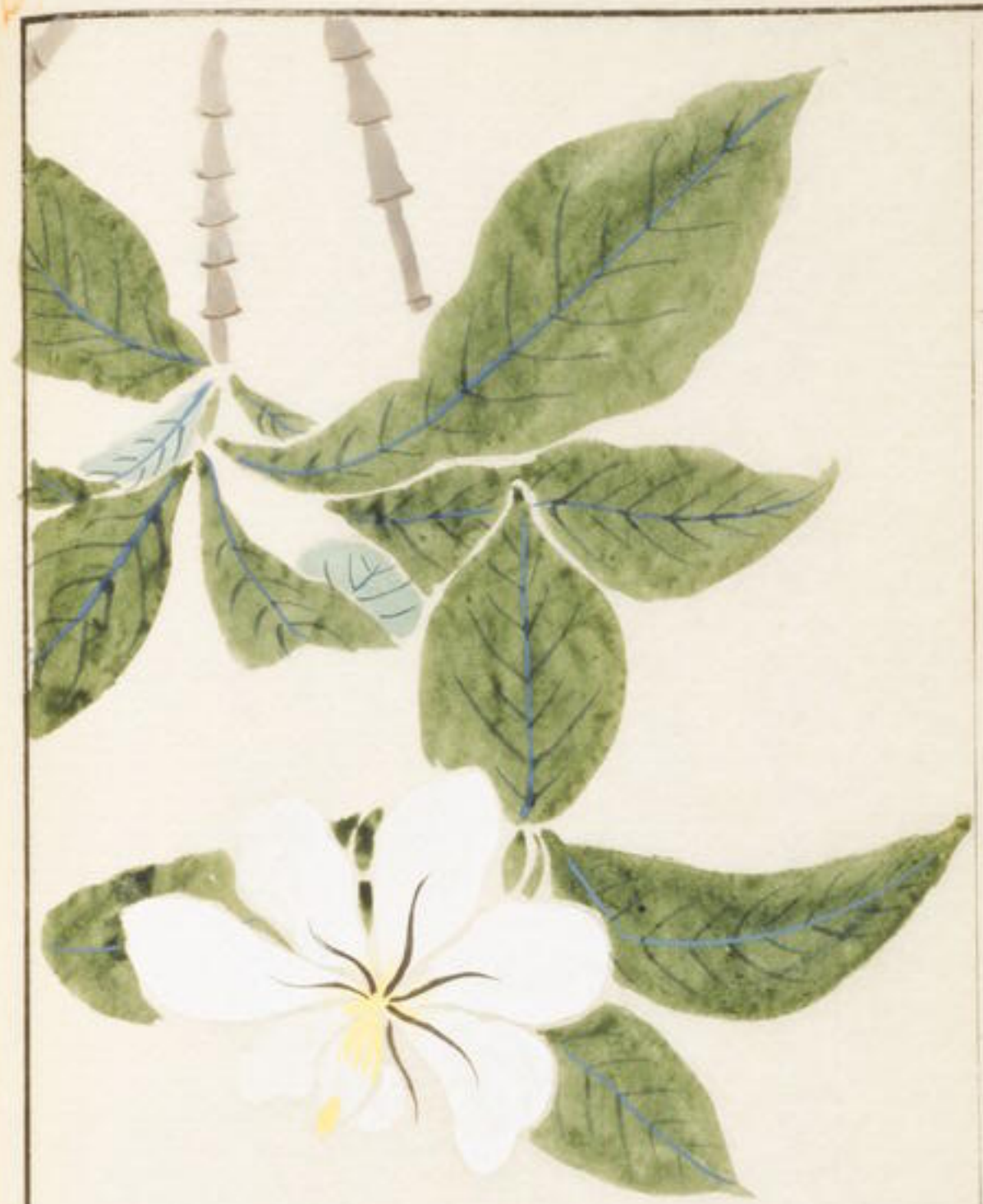
巵梔　上同

白玉花　白花譜

伏巵子　本草逢言

染梔子花　群芳譜

人家庭隙に多く栽ゆ樹高さ八九尺に過ぎ葉対生し形莽草に似て硬く染緑色にして皺紋あり初夏六瓣の白花を開くにちくさくに似て大に香気ほり実ハ花の下に生ぜ頭尾尖りて竪に稜ありて稜に鰭を生ぜ熟すれハ黄色となる中の実茄子に似て数十子あり此実染家の用となれ集解に云山巵子ハ山中自生の物にて薬用に上品とし樹ハ人家に栽る品よりハ高に至る花葉も又小之



一種

樹高さ二尺余葉の形円くして冬青の葉に似て花ハムちなしより小さく莖細く長く實も又小さし

一種

けんさうき

樹高さ三尺許り葉の形枸杞に似て先尖りて厚く硬く花ハ梔子に似て小く実も又小し

一種 おんちなし
かぐらちなし
玉樓春 八閩通志
欲留春 郡武府志
水梔花 同上
千葉梔子 汝南圃史
徽州梔子 群方譜
矮樹梔子 花鏡

樹甚だ矮生して高さ二尺許り枝葉繁密にして葉の形前条のけんさきに似たり花白色にして千葉をなれ実ハ結ぶを甚かたし

酸棗

ききなつめ 本草和名
なとなつめ 和名本草
さねぬる 和名鈔
のなつめ
いぬなつめ
やまなつめ 甲子
かがなつめ 藝引
とうさんろ 藝文
棘 典籍便覧
酸棗樹 枚荒本草

和産ハ藝州甲州信州上田小室の辺に多しと云漢種の物享保年中に渡る官園に栽るせられ大樹をなれり葉の形棗に異なれ小にして長さ五六分許り形棗の花と同し秋に至実熟れ味い酸にして食ふに堪れ其核大棗より大にして中に仁あり扁にして皂莢の子の如し此仁を薬用とすれ

酸棗

白棘　なつめのきのすり

此品ハ前条の酸棗の樹に生れる刺なり大樹にもありとゝへども小きも之若木の物を採り用ゆべし

雜核　蓳　本草和名　引釈藥性　蕤　核樹　救荒　本草

和産詳ならずは西湖の説に古人とりまくらはを以て充とゝへども非なりと云る漢種の物長崎の官園にあり樹の高さ五六尺枝も差も刺多し葉ハ枸杞に似て狹て細しとゝる此物未ゝ目撃されハ爰に圖を畧ス実ハ舶来あり形円く扁くして紋脉ありて黒褐色なり藥舗に前季仁を以て偽る物あり宜く擇い用ゆべし

一種

一種

同書に載る圖葉の形柞木の如し花淡黄色あり

物印忙に載る畫葉の形なきに似て花五辨淡紅色実八棗に似て長く先尖れり

山茱萸

さんしゅう 江戸山茱萸の音轉

かうものこ 本草和名

石棗 万病回春

蜀棗 本草和名引揭玄操

鷄豆 思益

鼠矢 同書引欲茱性

實棗樹 救荒本草

山茱萸をくこと訓するハ非なり享保年中淡種渡り今處々に多し葉の形牛膝に似て短くにして毛なし莖葉ともに対生し春の初しめ葉を生せさる前枝の節をに黄色のに黄花を簇開し後実を結に円くして長く拘把の子より大に下垂し熟すれハ紅色中に核あり形大棗の核に似て長し葉ハ花の散落に随て生し

山茱萸

一種

樹花実ともに無香に
同し唯葉無香に似て
短く円くして先尖形り
此物和産にして実を結
ふを少なし 西湖の説に

伊賀より献ぬ此物
ありとつゝ

胡頽子　諸生子 和名鈔　ぐそ 上同　さつきぐそ

くいそ 四國　ぐそ 阿良　たるらぐそ 肥前

ならぐそ 上同　半奈子 通雅

樹高さ七八尺葉の形茶の葉に似て硬く互生し初春葉の間に花を開く一房二三萼あり一花の形状木ハ筒にして末ハ分れる丁香の如く香気あり後実を結ぶ形拘把に似て長く白き星ありて中に長き核あり山茱萸の如く質甚堅く破れハ内に白綿あり

木半夏 集解

ちろくさ やまくさ

樹高さ一丈許り枝ハ胡頽子より
布ナカシテ下ニ垂る葉の形推ニ
似て互生れ面綠色背ハ淡楊
或ハ白色ニ春の末ニ葉の間ニ
花を生れ形胡頽子と同し
実ハ形円くしてかく南燭子
ニ似て大ニ白き点あり

一種あきくさ
と云物あり樹
高さ一丈許り
ニ至て冬ハ葉
ニ小ク春月新葉
を生れ形木半
夏ニ似て小く
春の小花を開く
形又木半夏と
同しくしてかく
実も又同し秋ニ
至りて熟れ

金櫻子

刺垸 通雅
糖礶 口上
雞陀子 諸症辨疑

先輩ゐにハいむぞ一名ゐつこおきと云へる物を充るゝ誤りなり漢經渡りて官園に栽させらる灌木にして叢生し高さ一丈許り枝葉繁生し稀に刺を生ず葉の形野薔薇に似て光澤あり葉の周りに細き齒を生ず春月枝の梢に蒼を生し形薔薇に似て刺多し開く時ハ五瓣にして淡紅色大さ二寸許り形又薔薇に似たり後花の水に実を結ぶ罌の如く大さ指頭の如し刺りに刺をかして栗球の如し

一種

樹葉ともに前条に似て紅色なし花も前条に似て白色なり以上二種ともに実を薬用まへし舶来の金櫻子と形状相同し

一種

樹葉の形状漢種の金櫻子に似て葉大く初夏枝の梢に花を開く形牡丹に似て大さ二寸余にして淡紅色実も前條に似たりとゝとも熟せしらず落稀に実を結ぶをゝとも小なり

本草圖譜卷之八十八目錄

灌木類

郁李　ふハむめ　一
一種　三
一種　ふろむめもとき
一種
一種　ゆうこうもち　八
一種　木荳枝　十
一種　ゆうこうもち　二
鼠李　あへかうし　四
女眞　ねつこもち　五
冬青　もちのき　七
一種　ふそうもち　九
枸骨　むいらき　十一

衛矛　くそまゆし　十二
一種　あるものおしき　十四
一種
一種　紅ぶんてん　十七
一種　いかくぶんてん　十九
一種　廿一
一種　きろこぶんてん　廿三
一種　ゆまおしきく　十三
山礬　そめしば　十五
南燭　ちんてん　十六
一種　つるぶんてん　十八
一種　竹葉ぶんてん　廿
一種　いとぶんてん　廿二
一種　うるこの物

本草圖譜卷之八十八

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

灌木類

郁李　みハむめ　むむめ 播州　棠李 事物異名

庭際に多く栽る小木にして高さ三四尺に過ぎ根より多く叢生し春新葉を生ぜ形李の葉に似て小く互生し同時に葉の長せさる時葉の凡ち蒼を生ぜ開く時へ五辨白色に紅を帯ひ大さ四五分計りにして美し後実を結ぶ形田人にして大さ四五分初ハ緑色夏月に至り熟して赤色にして味ひ酸甘し実の中に核あり此核中の白仁を採て薬用とし

郁李

ふハ
さくら

樹葉ともふ ふハ
むめに似て春月
葉の本より蒼を
生れ開く時の數
十餘にして形状菊
花の如く淡紅色
にして美くし後実
を結ぶとつゞれ稀
ふ結ぶときの形状
ふハむめと同し

一種

樹葉ともに前条に
似て春月葉の本に蒼
を生れ開く時は形状
又前条と同ケレ白色
なり後実を結ぶといへ
とも稀なり結ぶときは
形状にはむめの実と同し

鼠李 ふべかし

ふろおめもとき 江戸

ろしふろし 中州

ふがき 味は苦し故に名く

そりのおぶれ 越前

緑子 本經逢原

蜀州鼠李 備急本草

下總小金武州戸田あの原野に生れ高さ七八尺に至り葉の形李に似て大に立生し刺枝ありて刺に似たり春月枝の間に小さき黄白色の花を攢旋し秋に至りて実大になる形状莢葉の如く熟を小ハ藍黒色となる中に仁あり脂多し葉の味ひ渋く苦し毒何りとしつら綱目も微意ありとしつて

一種

ムラむめもとき 京

葉の形前金すり
至て小く春月新
葉の本に小く淡黄
色の花を放生し
後実を結ぶ形状
前条すり小く熟
せれハ藍黒色と
ふる

女貞

ねつともち 和名鈔

やぶ法むき

いだし 松前

凍青樹 救荒本草

ゑやはおき 本草和名

てふ法むき 幡別

水冬青 物理小識

冬生 本草和名引秋葉性

たろのき 上同

樹高さ一丈余枝條繁茂し葉冬凋まれ形冬青に似て両頭尖り
枝葉対生し夏月枝の梢に穂を出し小き白花を攢簇し後実
を結ぶ四くして長さなり形鼠の屎に似たり熟せれハ紫黒色と
ふる

女貞

一種

葉の形円くして先尖り紋脉の間にくれて皺の如し梢に穂をなして花を開く形ゆつしまちの如し

後実を結ぶ円くして豆の如く熟せれば黒色となる

冬青

まちのき　萬年枝 事物異名　長生 臺苑詳註

萬年樹 詳未譜　萬年木 正字通

冬牆 汝南圃史

種類多し樹高さ丈余葉互生し形女貞より濶く光澤あり横に皺紋なく平らかして老月を経て凋まれば夏月葉の間に五瓣の小き白色の花を簇生し後実を結ぶ初は緑色熟せれば赤色となる形樗の実の如し

冬青

一種

あてこのき 大和 加草

あてこもち

庭除に多く栽ゆ葉の形もつぶくに似て厚く冬凋まれ實に席をふして六七顆を集れ

一種

ふくらもち

葉の形前条ち円く大ふして先き尖ら花ハ葉の間に生して形又前条と同し

一種

木茨枝 和俗花戸

もちのき 同花事甲豆熟見方言

へざだな

たまもち 薩別

四國山中に多く
ゆうとも樹ハ冬青に
似たり葉を又冬青
に似て濶く兩頭尖
り梢の葉の間に五
瓣の小き白花を開
く形又冬青の花の
ことし

拘骨
云いらき
云らき
をふのめつき
をふしむ
貓頭刺 通 雅
貓刺 同 上

衛矛

くそまゆこ

かハ ゝまつぶ 和名鈔

ふしきゝ

やまもふしきゝ

まゆゝ

やむふしきゝ

山中に生ず人家にもうゆ 本高さ丈許り 夜葉対生し 葉の形 柱中に似て長さ一寸許り 周て五六分 細き銀齒 同し 春新葉の間に淺緑色の小花を開き後実を結ぶ形状 角にて三分許り 秋に黄熟して

紅色となり 自ら裂て紅実を現れ 形 杜中の如し 葉も冬月に至れば紅色或は紫色となり 散落れ 枝幹ともに 四五の角をなして 翼の形をなれ 初青色 後褐色となる 秋翼を とりて 薬用となれ

一種
やまふしきし
まさき 江戸
ぶとさふしさし 中越

山礬

をめしバ　とちしバ　かうしめしバ

をまんろき　ろろむい　あんしバ

をふもち　梅弟　幽客

九山黒香

山中に生ず樹高さ一丈余葉冬を經て凋まず形くちにして似て深綠色にして光澤あり枝葉ともに立生ず春月葉の間に一二寸の穗を短莖生し九瓣白色の花を開き黄色の葉を生ず香多きたよろし

一種

筑前の国大鳴恵峠に産れていつり葉の形前条より小く穂の形も又同じ実は細長く黄褐色なり

南燭

ふんてん 江戸　ありてん 京　ゐるてん

三葉 和方書　南天竹　烏菜 本草逢原

烏草 類書纂要　南草火 夢溪筆談　南天竺 柳樽花鏡

大椿 上日　黒飯樹 佐今紀花　楊桐草 細目石南発明

人家多く栽ゑ最も陰地に宜し西國にハ大樹なりて柱とふもへき物あり此ハ葉ハ一莖数十葉を生ゝ一葉の形ハ夏の葉に似て小く莖細し四時凋ずして春月新葉を生し紅色なり淡青色ハ夏月梢に立六寸の穂を生し数十花を開く一花の形三分許り白色六瓣ハ蒼の時ハ数瓣の蕾あり千葉の如しと云ふ葉を開くときハ蕾落て六瓣となる訳に散易しと見ハ難し後実を結ぶ初青色冬に至り熟して深紅色となる能養ハときハ春に至るまでなり此物の一種に実白色の物一種黄色のものあり

南燭

一種
いかだぶんそん

一種
竹葉
ちんそん
葉の形中より先
細く竹葉の如く花
は常の色と同じ

白色実も白色
あり

一種

葉の形細くして大葉の物は幅二分許り小葉の物は一分許り
莖紫の色を細く長し花は
常の如く同じ

一種

いとゐんてん

葉の形至て細く仰生の
物ハ糸の如し長さ水ハ
一分許りに至る花実ハ
常の品と同し

一種

さろしゐんてん

花葉とまに常の品に
似て紅色を実熟れ
れハ白色なり

一種

花葉ともに紫の西に似て実熟せれば白色に微し褐色を帯へり

本草圖譜卷之八十九目錄

灌木類

五加 むさき 一種

枹杞 ぬこぐさり 三

枸棘 集解 四

地骨皮 一種 ふうつぎ

溲疏 うつき 五

一種 一種 ふろうつぎ

一種 ふさこなうつぎ 九

一種 ミつむうつぎ 七

楊櫨	たふうつぎ	九	一種	十
一種	もさねうつぎ	十一	一種	十二
一種			石南	十三
一種	大峯高くなげ		牡荊	十五
蔓荊	もまむひ	十六	一種	
柴荊	もふさはう	十九	柴珠	廿
一種	むらさきさるぶ		一種	廿一

本草圖譜卷之八十九

東都　岩崎常正　著
男　岩崎信正
門人　小山廣孝　校

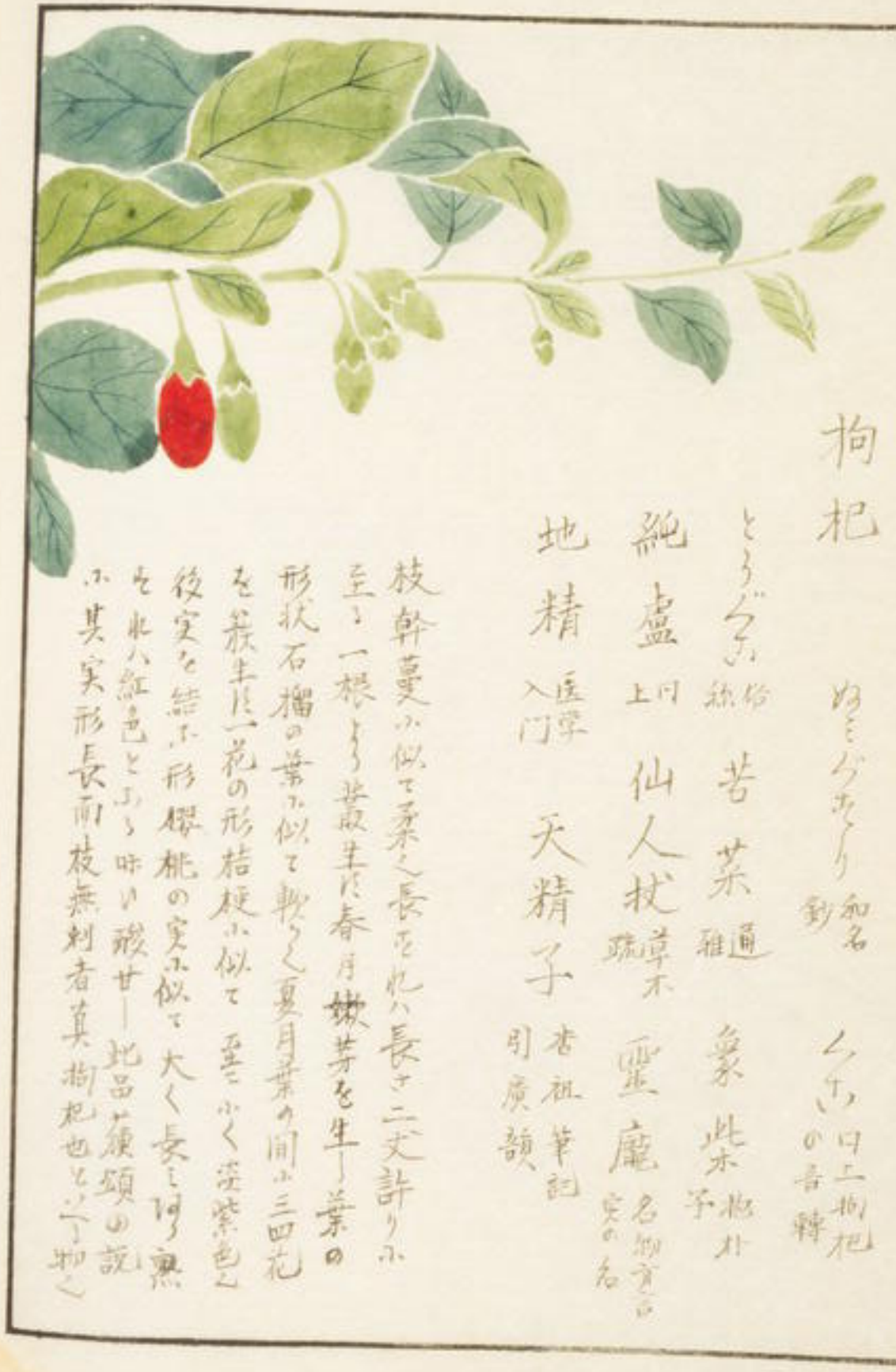
灌木類

五加
むかき 和名鈔　うかき うかは五加の漢音　いろかき 佐孟
金玉香草 群芳譜　文章草 花鏡楊引縣志　五茄 枹朴子
八角茶 医林四書　金鹽母 発明以下根皮　五葭 本草和名引経蒸経
杜節　節花 共ニ同上引兼名苑　豉母 同上引大清経

樹高さ八九尺に至る樹皮白色を帯へり
春月宿莖より嫩芽を生ず一莖五葉を
なして形牡荊に似て先尖られ周りに浅き
鋸歯あり一葉の長さ二寸許りに至る此葉葉
き時採て食料とすれ夏月葉の間に小
花穗をなして開き後実を結ぶ形人参の実
に似て円く秋月に至り黒色となる葉も
秋月に至れハ枯落れ大和本草に葉を食へ
し又乾て食れ茶とするもよしといへり

一種

此品人家多く栽て藩籬にあれ樹高
て八九尺ト至る樹皮前条と同し舊茎
新茎とも刺多して葉をとるに甚害
あり春月葉を生ず形前条に似て少し
小さし花実も又前条とあなし



枸杞

ぬこぐあたり 和名鈔

くこ 口上枸杞の音轉

とうぐこ 俗稱

苦菜 通雅

象柴 抱朴子

純盧 同上

仙人杖 草木疏

靈龐 名物方言実の名

地精 医学入門

天精子 杏祖筆記 引廣韻

枝幹蔓に似て柔く長さ九ハ長さ二丈許りに至る一根より叢生し春月嫩芽を生し葉の形状石榴の葉に似て軟らく夏月葉の間に三四花を叢生し一花の形桔梗に似て至て小く淡紫色し後実を結ぶ形櫻桃の実に似て大く長さ同る熟を水ハ紅色とふる味い酸せし此品蘇頌の説に其実形長而枝無刺者真枸杞也と云ふ物と

拘棘 集解

人家に栽て籬とす樹の形前条に似て長さ三丈

許り葉の形前条に似て少し小く舊生新蓋を来刺を生ず花実も前条と同しく実前条より長くあり 藥類の説に有刺者拘棘也とゝ云ものゝ

地骨皮

拘杞の根の皮也 其形朽木の肌の如く黒褐色にして軟かなり

溲疏

うつぎ 和名鈔　うつけ 上州　ふろうのはな

うのはな　もめき 薩州

集解の諸説にては適當ならざれども古説に隨てうつぎを載れ山野人家ともに多くにて樹高さ七八尺に至る枝葉對生す春月嫩芽を生ず葉の形亦天蓼に似て厚く周りに鋸齒あり初夏梢に二三寸の穂をなして五辨の白花を開く形桔梗に似て大さ四五分許りく後実を結ぶ形がんけしの実の如し

一種

ふらつぎ
ゑめうつぎ

樹高さ二三尺に至る葉の形前条に似て小く花も前条に同し

一種

樹高さ七八尺に至る葉の形うつぎに同し初夏梢に穂をなして千葉の淡紅色の花を開く形菊の如大サ四五分許りなり

一種

樹の高さ前条と同じ
花葉の形状亦前条
と同じて白色なり

一種 ちろうつき 日光
やよかちうつき 鞍馬

葉の形うつきに
似て糙渋なく梢
に穂をおして白色
五瓣の花を開く
大さ三四分許り

一種

ふむうつき

ふろ　おせ

ふめ〳〵　日光

大樹とおしたる枝を多く生ず葉ハ一莖三葉にして北んけうの如く四月梢ニ穂を而花を開く形前条ニ似ゆ実ハ形軍配ニ似ゆ

一種

ふむまあらつぎ

日光山中ニ自生ゆ葉ハ溲蔬ニ似て濶く対生し無の縦道ゆ梢ニ穂を出して夏月四瓣の白花を開く大さ六分余にしてうつきよりハ

楊櫨

たにうつぎ　やまうつぎ

さつきばな 越中　さをとめうつぎ 雲及

山足に自生ある人家にも多く栽ゆ樹高さ六七尺春嫩芽を生ず葉の形紫陽花に似て小く薄く周りに鋸齒あり葉嫩き時は紅色を帯へり夏月葉の間に花を開く形常のうつきに似て大く長さ一寸余淡紅色あり後実を結ぶ熟れは四五瓣に破きて花の如し

一種

樹葉花実ともに前条に似て花黄色なり

一種

まさねうつぎ

十姉妹 三才圖會　錦帯花 同上

鬢嬌 丹鉛總絲引 成都古今記　海仙花 滙水燕 丹錄　日月花 中山貞同

樹高さ六七尺に至る春月旧茎より嫩芽を生ず葉の形状たみうつぎに似て大に厚く周りに鋸歯あり初夏より葉の間ゑに一方に六七花を生ず二方合せれば数十四五花に至る一花の形だにうつぎに似て筒短く大なり初開く時は白花ばかり次日は淡紅色となる日に随て紅色となる一木満開せるときは紅白数百花相雑りて甚美なり

一種

樹葉花とともに前条に似て花深紅色なるもの

一種

樹葉花とともに前条に似て花白色なるもの

石南　しやくなげ

しやくなき　しやくなん

深山幽谷に生ず樹の高さ六七尺に至る葉四時ときに凋まれ形状枇杷の葉に似てかく面深緑色背は褐色の柔毛にて初夏梢に枝を生ず数花を簇生れ一花の形躑躅に似て大小五瓣或は六七瓣をなれ開くときは淡紅色となれり

一種

大峯　しやくなげ

葉の形やたけに似て厚く面深緑色背に黄楊色の毛あり花は前条に同じ[illegible]愛に見されば圖せず

牡荊　ぶんたうんぼく　たつのきこ　こつむらじ

土欒 通 雅　木欒 夢溪 筆談

和産なし享保年中漢種渡りたすり今世に多く樹叢生し高さ丈余に至る春新葉を生ず枝葉対生し葉の形一至三葉後五葉とあり人參の葉に似たるゆゑにんじんぼくと名づく一葉の形長く尖り鋸歯ありて香薷の葉の如し嫩葉は微し紫色を帯ひ長ずれば淡緑色となる新枝は方にして緑色旧枝は円くして褐色之折れば中に方心ありて他木と異なれり初夏すり枝の梢ことに穂を生し花をふれ枝多くして長さ又許り花の形紫蘇の花に似て薄紫色後実を結ぶ形胡荽子に似て円く微し長く熟すれば黒色く

蔓荊

たまたひ 本草和名 和名鈔　たまたひ 和名 本草　たましきこ

いまかつら　たまごら 佐良　たまつむき 上口

ほう 土良　たまごら 藝良黄種和名もまい又たまゆらと云者とは別物なり

たまたき 雪良　たまらつき　たまやちき

たまあたひ　きイおら 蛮名

暖地の海辺に自生ゆり枝幹ともに柔軟にして蔓の如く枝地に付る節により根を生ず葉に円くして白微の葉に似て厚く粉緑色にして対生ず秋月莖の梢穂を生ずるを長さ三四寸紫碧色の花を開く紫蘿の花に似て至て大に五六分許り人後実を結ぶ円くして褐色其殻厚く形南燭の子より大ひく豆加志に根を採りて紅色を染と云り此枝葉を採り下品の線香に造るといへり

一種

樹葉花ともに形状前条に同しくして唯花正白色に此実も前条と同しく薬用に入るべし

白花の物

紫荊

たちかしはら　たいらまふ　たいらのき

まふ　むらさき

矮荷　古今医統

滿條紅　群芳譜

火蠟　正字通

人家に多く栽や樹高さ丈許り少至る春月葉に先して花を開く紫紅色かして形状胡枝子花に似て辨原し其花を生ずる所の他木と異にして定る処あり或ハ樹或ハ枝或ハ枝の叉の間にあつて一房数花を簇生ず花後実を生ず形豆莢に似て中に扁き豆の如き実あり地下に下せハ生し易し葉ハ花後に生ず形豆の一葉に似て厚く大さ三四寸に至る此樹の皮を採りて采用とすれ

柴胡

紫珠 集解 ふむらさき

ミむらさき 播 呉

ふめ〳〵のき 尾五円 名同

山中に生ぜ枝葉対生し葉の形桃葉衛矛に似て深緑色細き鋸歯なり直葉の間に五瓣の小紫花を簇開し後円き実を結ぶ初め緑色秋後に至り熟して紫色となる形南燭の実の如く葉茄若生れば実にいふべく美く

一種 むらさき ふきこ

むらさき ふきこ

たまむらさき とめうつき

花実の形状あむらさきの如く葉の形状固しく大いく

一種

やふしろ
やまじろ

常ゆ筑波山中にあり樹高さ一丈許り葉の形にむぐさきに似たり夏月葉の間に五瓣の小白花を簇生に後小さ実を結ぶ初緑色熟れは白色となる形状にむぐさきと同じ

特1
278

本草図譜

喬木類
灌木類

82-87